

<p>日本建築学会北海道支部 2012年度 通常総会</p>
------------------------------------

日時 2012年5月11日(金)  
会場 北海道建設会館

---

日本建築学会北海道支部



## 日本建築学会北海道支部 2012 年度総会議案

### I 2011 年度事業報告

2011 年度は学会の新法人（一般社団法人）への移行にあたり、代議員定数の見直しなどの検討の他、3 月の総会で定款・一般規則・選挙規則変更案が議決されました。支部規定などでの大幅な見直しについては、基本的には従来の進め方を踏襲しつつ、細かな課題は次年度に持ち越されています。

そのような過渡期ではありましたが、2011 年度の支部活動は、支部活動の強化（会員の増強、財政の改善と強化、支部体制の見直し（各種委員会のあり方検討）、支部活動の活性化（支部発表会、建築作品発表会、技術賞ほか各賞、建築教育）の 3 項目に主に要約されます。

特に近年の個人会員、法人会員の減少は著しく、当支部は 4 月現在で、正会員 862 名、準会員 5 名、法人 46(62 口)、賛助会員 6(7 口)という状況です。会員数の減少を食い止めることと、さらに会員増強は急務ととらえ、従来以上に北海道支部の存在や役割をアピールする活動も進めました。また、支部活動の見直しも各専門委員会を中心に行われておりますが、さらに委員定数のあり方、委員会活動状況の点検・評価などについては、次年度以降の課題として残されました。

また、北海道支部技術賞に関しては、前年度の応募がなかった点を反省しつつ、賞のあり方、応募上の規定などについて時間をかけて検討した結果、本年度は 1 件の授賞を決めることができました。さらに、建築作品発表会も 31 回を迎え、発表会及び作品集の編集を通じて、北海道建築界の健全な建築文化と建築批評の醸成に貢献したと考えております。また支部研究発表会は第 84 回を迎え、論文数も 162 題を数え、活発な研究活動が展開しているといえます。

#### 1. 支部運営の諸会合の開催

##### ◆ 総会

期日 2011 年 5 月 13 日  
会場 北海道第二水産ビル  
出席正会員 53 名（委任状 16 通）

当支部地域在住正会員 906 名の 30 分の 1、30 名以上の出席により成立

2010 年度事業報告及び収支決算、ならびに 2011 年度事業計画方針案及び予算案を審議し、異議なく可決承認された。

##### ◆ 常議員会

6 回開催(通信常議員会含)

##### ◆ 常任幹事会

5 回開催

##### ◆ 選挙管理委員会

1 回開催

#### 2. 学術系委員会の活動

##### 2. 1 学術委員会（主査：緑川 光正君，委員数：14名，委員会開催数：4回）

本委員会では、本部学術推進委員会の情報を各専門委員会および研究委員会に伝達するとともに、各専門委員会・研究委員会から企画及び活動の報告を受けた。また、支部研究発表会実行委員会の企画の審議と承認、特色ある支部活動企画の申請、特定課題研究の推薦、建築文化週間事業企画および北海道支部技術賞の募集と選考を行った。

- ・ 特色ある支部活動企画：北海道支部から「東日本大震災を機とした避難移住の実態と支援方策に関する研究」,「奥尻島災害復興計画に係わる証言の記録」の2件を応募したが採択に至らなかった。
- ・ 特定課題研究：「奥尻島津波災害からの生活再建に関する研究」(都市防災専門委員会より申請,支部助成,2年間)および「厳冬期被災を想定した避難所運営手法に関する研究」(環境工学専門委員会より申請,支部助成,2年間)の2件を常議委員会に推薦した。
- ・ 建築文化週間企画：「歴史的建造物の見学「建築散歩～北彩都・旭川編」」(歴史意匠専門委員会)および「地震防災体験学習・・・親子で始める地震防災対策」(都市防災専門委員会)の2件を了承した。
- ・ 支部技術賞：12月15日～1月15日の募集期間に2件の応募があり,「陸別小学校多目的ホールにおける集成材格子梁による自由曲面屋根システムの開発」の1件が採択された。

## 2. 2 専門委員会の活動

### ◆ 材料施工専門委員会 (主査：伊東 敏幸君, 委員数：23名, 委員会開催数：6回)

本委員会は2ヶ月に1回の割合で計6回開催した。委員会では、学会本部の材料施工委員会や関連委員会の報告、諮問事項の検討などを行い、材料・施工に関する情報について意見交換した。また、最近の研究動向に関する話題提供として、「表面改質されたコンクリートの凍結融解の解析」や「各種セメントを用いたコンクリートの強度増進性状に及ぼす温度・時間影響」などについて報告して頂き、委員による意見交換を行った。なお、11/15(火)に北海道工業大学体育館新築工事の現場見学会を参加者29名で実施(構造専門委員会と合同)した。

### ◆ 構造専門委員会 (主査：田沼 吉伸君, 委員数：25名, 委員会開催数：2回)

定期的に委員会を開催して構造関連の情報交換を行い、下記の活動を行った。

#### 1) 委員会開催

委員会を都市防災専門委員会と合同で2回行った(7月1日,12月15日)。また、必要に応じて通信会議を行った。

#### 2) 見学会

##### (1)(株)双葉工業社(石狩)の3工場の見学：溶接学会北海道支部,日本鉄鋼連盟と共催

はまなす(鉄骨製作)工場,石狩(溶融亜鉛メッキ)工場,新港(鉄塔製作)工場

実施日時：2011年11月10日(木)13:30～16:30 参加者：28名

##### (2)北海道工業大学の体育館新築工事現場の見学：材料施工専門委員会と合同実施

実施日時：2011年11月15日(火)14:00～15:30 参加者：29名

#### 3) 日本建築学会における被災建築物悉皆調査への協力

6名の委員が仙台市内の被災建物の調査協力を行った。

#### 4) 勉強会

12月21日の委員会終了後、主として仙台市内の被災建物に関する勉強会を行った。

講師：岡崎 太一郎委員(北海道大学)、前田 憲太郎委員(北海道工業大学)

### ◆ 環境工学専門委員会 (主査：齊藤 雅也君, 委員数：27名, 委員会開催数：4回)

1) 若手研究者の研究発表の機会を設け、最新の研究動向の把握とともに、委員会での研究活性化を図った(2回)。

2) 木村建一 早大名誉教授の特別講演会「世界の民家に見る自然エネルギー技術」を主催した。

平成23年10月27日に北海道大学で開催。参加者85名。

3) 本部環境工学委員会の主催行事「第41回熱シンポジウム」を支援した。平成23年10月28、29日に札幌市立大学で開催。参加者95名。

4) 北方系住宅委員会と共催で下川町エコハウス美桑の見学会を実施した。平成23年11月23日、参加者18名。

5) 第6回環境工学系・卒業論文発表会EGGs11の開催を支援した。平成24年3月9日に北海道工業大学にて開催し、研究発表：全48題、参加者86名(学生68名+一般・教員18名)。

6) その他、空気調和・衛生工学会 地区講演会を後援した。

◆ **建築計画専門委員会**（主査：森 傑君，委員数：15名，委員会開催数：4回，公開研究会：2回）

本年度は、これまでの活動実績を踏まえつつ、今後もより精力的な学術活動および社会貢献活動を展開すべく、若手を中心とした委員構成へと組織を刷新し、本委員会の再活性化に取り組んだ。具体的には、各委員の研究活動報告とともに、AIJ 次世代の計画系プラットフォーム若手奨励特別研究委員会との共同主催による公開研究会「シーニックバイウェイとまちづくり／都市周縁・近郊地域における地域社会の形成と交流」(2011.8.11)、AIJ 建築計画委員会公共施設マネジメント小委員会との共同主催による公開研究会「真駒内小学校のこれまでとこれから」(2012.2.29)を実施した。また、東日本大震災に関わる北海道への避難移住者の生活・居住実態に関する調査研究を開始し、本年度の結果の速報は「日本建築学会建築計画委員会・震災関連計画系研究情報WGのページ」(<http://news-sv.aij.or.jp/keikaku/shinsai-infoWG.htm>)に公開している。

◆ **都市計画専門委員会**（主査：坂井 文君，委員数：14名，委員会開催数：5回）

都市計画委員会は、公開シンポジウム「新たな公共空間の計画・デザイン・マネジメント～現場の人が語る札幌駅前地下歩行空間」を開催し、3名のプレゼンターと約80名の参加者によって、これからの公共空間のあり方についての議論が展開された。また1月には、北海道の地方都市をめぐる都市計画の現状と課題についての意見交換が昨年度に引き続き企画され、今年度は夕張市の都市計画について現場の報告につづき、コンパクト化に向けた都市計画の課題について議論した。年度末には、ロンドン大学のカルモナ教授による特別講演会が企画され、ロンドンの事例を中心に公共空間の課題と展望について、多くの学生や実務者も含んで議論が展開された。

◆ **歴史意匠専門委員会**（主査：羽深 久夫君，委員数：17名，委員会開催数：4回）

道内各地域の歴史的建造物の現状を把握することに努め、保存・活用等に関して委員相互の情報交換を行ない、必要に応じて学会として社会や住民に発言する活動を行った。恒例の建築文化週間事業として「建築散歩～小樽・積丹編」(10/15)を120名の応募者から55名に絞り行なった。旧「王子サーモン館」の保存に関する要望書(1/25)を支部長名で札幌市長に提出した。2011年度道内工業高校巡回講演会を北見工業高校で行なった(2/8)。

◆ **北方系住宅専門委員会**（主査：鈴木 大隆君，委員数：17名，委員会開催数：2回）

本委員会は以下の活動を実施した。

- 1) 北海道の住宅にまつわる現状認識、問題などについて議論を行うため、住宅見学会を開催した。日時：2011.11.23、下川町環境共生型モデル住宅「エコハウス 美桑（みくわ）」、参加者数：18名。
- 2) 住宅ストックの持続的活用による北海道の住文化の形成に資するために、支部特定課題研究「三角屋根コンクリートブロック住宅の持続可能住居について」を実施した。
- 3) 委託研究「北海道の新たな住宅居住水準の検討」委員会に協力を行った。

◆ **都市防災専門委員会**（主査：草苅 敏夫君，委員数：19名，委員会開催数：2回，通信委員会開催数：3回）

都市防災専門委員会では、9月25日に釧路市で開催された釧路市「防災ワンデー2011」に対する協力を行った。さらに、建築文化週間「地震防災体験学習 in 幕別」への運営協力支援、中標津町と釧路市で行われた地震防災セミナーへの協力ならびに防災ワンデー「釧路防災講演会2011」に対する協力を行い、一般住民の防災意識向上や地域の防災力向上に対する支援活動を行った。また、冬季の津波避難研究委員会の活動を支部研究発表会にて報告した。

## 2.3 特定課題研究委員会の実施

(2011年度より)

◆ **三角屋根コンクリートブロック住宅の持続可能居住研究委員会**（主査：鈴木 大隆君 委員数：12名，委員会開催数：3回）

三角屋根コンクリートブロック住宅（三角屋根 CB 造住宅）は防寒住宅等促進法制定以降から北海道住宅供給公社により全道の主要都市へ供給され、その数は 1 万 2 千戸と言われている。寒冷地住宅の建築計画学の第一人者であった故足達富士夫北海道大学教授はそれを「北海道の民家」と評するなど三角屋根 CB 造住宅の評価は高い。住宅改修が考慮される現在、ストックとしても多く現存しかつ現代史的にも秀逸な三角屋根 CB 造住宅より、新たな住空間の可能性を見いだすために、昨年度は以下の活動を実施した。

- 1) 北海道住宅供給公社に所蔵してある S31 から S59 までの図面とパンフレット、道機関研究所（現、北総研）等保管の資料をもとに技術開発の分析を行った。また、建設当時住宅供給公社に勤めていた技術者へヒアリング調査を行った。
- 2) 上記の図面を元に三角屋根 CB 造住宅が建てられた配置図・敷地図を作成し現地調査を行い、三角屋根 CB 造住宅の状況を把握した。
- 3) 元町団地を対象に当時開発建設された状況を整理するとともに現地調査を実施し、当時と現在の元町団地の状況について比較分析を行った。また、いまなお住み続けている居住者にヒアリングを実施し住みこなし方などを調査した。

本成果は、支部研究発表会または全国大会にて発表予定である。

## 2. 4 本部からの支部助成金による研究委員会の実施

(2011 年度より)

◆寒中コンクリート工事合理化研究委員会（主査：谷口 円君，委員数：13 名，委員会開催数：4 回）

本委員会は、地域、養生条件等の異なる実施工現場において、外気、上屋内、構造体、管理供試体温度の実測データを収集・解析を行い、気象統計値と予想コンクリート温度を用いた合理的な寒中コンクリート工事施工計画を立案するための実用的な資料提供を目的に活動を行った。2011 年度には、以下の活動を行った。

- 1) 夏期の実施工現場における温度実測・解析（札幌市内 5 現場）
- 2) 向寒期のマスコンクリート実施工現場における温度実測・解析（札幌市内 1 現場）
- 3) 冬期の実施工現場における温度実測・解析（道内 4 現場）

## 2. 5 特色ある支部活動の実施

該当なし

## 3. 委託調査研究の受託

契約年月日	委託調査研究名	担当委員会（代表者）	委託者
2011.5.31	新たな北海道型住宅の居住水準に関する研究	北海道の住宅居住水準検討委員会 (主査 森 傑)	地方独立行政法人 北海道立総合研究機構

### 3. 1 受託の概要

新たな北海道型住宅の居住水準に関する調査研究業務（受託金額：500,000円）

21世紀の北海道の社会情勢を踏まえ、これからの北海道にふさわしい新たな住様式、住宅像を描き出し提案することを目的とする。

### 3. 2 委員会の報告

北海道の住宅居住水準検討委員会（主査：森 傑，委員数 14 名，委員会開催数 6 回，WG 開催数 4 回）

本委員会は、「新たな北海道型住宅の居住水準に関する研究」のための検討委員会として、平成 23～24 年度の 2 年間、21 世紀の北海道の社会情勢を踏まえ、これからの北海道にふさわしい新たな住様式・住宅像を描き出し提案することを目的としている。戦後、北海道の住宅は寒さや雪の障害の克服を目指して、大きな変貌を遂げてきた。しかし、21 世紀に入りこれまで経験されてこなかった人口減少・少子高齢

社会の到来や多様な価値観に基づく住要求など、居住水準を取り巻く認識や価値観が大きく変わってきている。平成23年度は、昭和55年3月に日本建築学会北海道支部より発行された「寒地住宅の規模水準に関する調査研究」報告書を踏まえ、新たな住様式および地域資源を活用した住空間ビジョンの提案フレームについての基礎的な検討を行った。

#### 4. 支部研究発表会の実施（主査：高井 伸雄君，実行委員会委員数：16名，委員会開催数5回）

##### 4. 1 開催要領

日本建築学会北海道支部 第84回研究発表会

日時：2011年7月2日（土）9：00－19：30（受付9：00－）

場所：札幌市立大学芸術の森キャンパス（札幌市南区）

参加者：約200名

##### 4. 2 実行委員会

①実行委員会委員 [主査]高井，[構造]前田，溝口 [材料施工]濱，桂田[環境工学]魚住（幹事），斉藤 [建築計画]森，野村，門谷，千里 [都市計画]久保，片山 [歴史意匠]羽深（幹事），西澤 [北方住宅]小倉，立松 [防災]戸松，土屋 [事務局]菊地

②実行委員会開催回数 3回（第1回12/17，第2回2月メール審議，第3回プロ編4/22）

③実行委員会スケジュール

12/17：第1回実行委員会、11月末日：建築雑誌入稿、2月：第2回実行委員会メール審議、1月：建築雑誌会告、2月下旬：HP作成、3月上旬：HP原稿募集、4/14：原稿締め切り、4/22：第3回実行委員会プロ編、5月上旬プロ編校正、5月中旬：CD印刷入稿、6月中旬：CD発送、7/2：支部研究発表会

##### 4. 3 研究発表会

論文総数 162題（開催時期を夏にしてから過去最高の論文数）

###### ① 種別論文数

A原稿（講演研究論文）123題、B原稿（資料研究論文）27題、  
C原稿（計画・技術報告）7題、D原稿（技術賞報告）5題

###### ② 所属別論文数（第一著者および第二著者で判断、卒業生を含む）

北海道大学61、北海道立北方建築総合研究所24、室蘭工業大学17、北海道工業大学9、  
釧路工業高等専門学校7、札幌市立大学5、高知県立大5、北海学園大学4、高知女子大4、  
東海大学旭川校3、藤女3、北海道職業能力開発大学校2、日大2、その他16

###### ③ 優秀講演奨励賞（<http://news-sv.aij.or.jp/hokkaido/>にて公開）

計画：有吉洸（北海道大学）・萱沼公実子（大和ライフネクスト株式会社）

構造：大澤隆幸（室蘭工業大学）・澤田耕助（北海道大学）・石井建（北海道大学）

環境：二渡直樹（北海道大学）・富田麻未（飯田ウッドワークシステム株式会社）

歴史：今野祐太（北海道大学）

材料：中村暢（室蘭工業大学）

##### 4. 4 特別企画：坂本一成講演会 同日15：30－17：30

テーマ「建築構成の修辞と論理、そして詩学」

会場：C棟 大講義室

参加者：約200名

司会：那須 聖（札幌市立大学）副司会：小澤丈夫（北海道大学）・山田 深（室蘭工業大学）

記録：片山 めぐみ（札幌市立大学）

※特別企画の報告→ <http://news-sv.aij.or.jp/hokkaido/>

##### 4. 5 懇親会

日時：2011年7月2日（土）18：00－19：30

会場：クローバーホール

## 5. 表彰

### 5. 1 北海道建築賞

#### (1) 北海道建築賞委員会（主査：小篠 隆生君 委員7名 委員会開催数3回現地審査3回）

本委員会は1975年、北海道支部に表彰制度が設けられて以来、道内に建設された建築（アーバン・デザイン等の領域も含む）の中から本賞・特別賞・奨励賞に相応しい作品を選考し、2011年度で36回目となった。選考の基準としては、作品の有する「先進性」、「規範性」および「洗練度」の視点を掲げている。

今年度は、4月15日（木）の応募開始から11月4日（金）の表彰式および受賞記念講演会まで、以下に示す一連の活動を通して第36回北海道建築賞を実施することができた。

- 5月6日（金）： 第1回委員会 応募状況の確認および応募推薦作品の選定・スケジュールの確認。
- 5月19日（木）： 第1回審査会 応募12作品が審査対象作品となることを確認。書類審査で現地審査対象作品6作品を選考。
- 6月28日（火）： 第1回現地審査  
「第一三共札幌支店ビル」「札幌市立大学大学院デザイン研究科棟」（札幌市）
- 7月4日（月）： 第2回現地審査  
「フツウ・ノイエ」（札幌市）、「Leaf House」（小樽市）、  
「岩見沢の家」（岩見沢市）
- 7月30日（土）： 第3回現地審査  
「下川町環境共生モデル住宅 美桑」（下川町）
- 9月1日（木）： 第2回審査会 最終選考を行い以下の結果となった。  
・北海道建築賞 該当なし  
・北海道建築奨励賞 「フツウ・ノイエ」（赤坂真一郎君／（株）アカサカシンイチロウアトリエ）  
・同 上 「岩見沢の家」（長坂大君／京都工芸繊維大学）
- 11月4日（金）： 北海道大学遠友学舎にて表彰式および受賞記念講演会が開催され、設計者自身による授賞作品のコンセプト構築と設計プログラムへの展開、その実施プロセスについて詳しく解説され有意義であった。

審査員：

主査：小篠 隆生君

委員：加藤 誠君、久保田 克己君、君、齋藤 利明君、鈴木 敏司君、平尾 稔幸君  
山田 深君

#### (2) 受賞者

- ◆北海道建築奨励賞 赤坂真一郎君（株式会社アカサカシンイチロウアトリエ）  
作品名—「フツウ・ノイエ」の設計
- ◆北海道建築奨励賞 長坂 大君（京都工芸繊維大学）  
作品名—「岩見沢の家」の設計

#### (3) 審査経緯

今年度の北海道建築賞委員会は、委員の2名が交代し、新主査が選任され新しい体制で、2011年5月6日、札幌市内で2011年度の第1回委員会を開催した。委員会体制、審査プロセスの透明性、スケジュールなどを確認したうえで応募状況を検討し、委員の中で注目に値する作品を「北海道建築作品発表会」他をもとに議論し、その中から委員からの応募推薦対象作品として5作品



を選び、各設計者に正式な応募手続きを依頼した。

第1回の審査委員会は、5月19日に開催され、応募作品が7点に前述の5作品を加えた計12作品を今年度の審査対象作品とした。

応募作品及び応募設計者（応募順）：

- ① フツウ・ノイエ（赤坂真一郎君／(株)アカサカシンイチロウアトリエ）
- ② 北海道整形外科記念病院（弓良芳雄君他／(株)北海道日建設計）
- ③ 第一三共札幌支店ビル（今井宏君／清水建設(株)設計本部）
- ④ 旭川の家（加瀬谷章紀君他／国際ローヤル建築設計一級建築士事務所）
- ⑤ 小樽市指定歴史的建造物（旧）岡川薬局（福島慶介君／N 合同会社・(株)福島工務店）
- ⑥ 千歳市防災学習交流センター（そなえーる）（藤原末夫君他／(株)久米設計札幌支社）
- ⑦ 十勝トテッポ工房（鈴木理君／(株)鈴木理アトリエ）
- ⑧ 札幌市立大学大学院デザイン研究科棟（那須聖君／札幌市立大学、辻弘明君他／創建社）
- ⑨ 下川町環境共生モデル住宅 美桑（櫻井百子君他／アトリエ momo）
- ⑩ 岩見沢の家（長坂大君／京都工芸繊維大学）
- ⑪ Leaf house（小倉寛征君／エスエーデザインオフィス）
- ⑫ 美幌の家（堀尾浩君／堀尾浩建築設計事務所）

審査には、議論を通じて全委員の同意を得ること、評価の視点としては、これまでの選考の視点を崩さずに、計画理論や設計・デザインに対しての新しい挑戦や問題意識、新しい生活・環境の構築を目指した意欲とビジョンに対する「先進性」、時間空間軸における自然を含めた人間社会に対する「規範性」、それらを統合して建築としての高い質を確保することを目指す「洗練度」の3項目を共通価値とすることを最初に確認し、現地審査対象作品を選定する書類審査に移った。応募資料の内容を丁寧にトレースし、議論を重ねた末に、現地審査該当作品（順不同）として以下の6作品、①フツウ・ノイエ（赤坂真一郎君／(株)アカサカシンイチロウアトリエ）、③第一三共札幌支店ビル（今井宏君／清水建設(株)設計本部）、⑧札幌市立大学大学院デザイン研究科棟（那須聖君／札幌市立大学、辻弘明君他／創建社）、⑨下川町環境共生モデル住宅 美桑（櫻井百子君他／アトリエ momo）、⑩岩見沢の家（長坂大君／京都工芸繊維大学）、⑪Leaf house（小倉寛征君／エスエーデザインオフィス）が選定された。

現地審査は、委員7名の過半の参加を原則に3回に分けて実施された。6月28日に③第一三共札幌支店ビル、⑧札幌市立大学大学院デザイン研究科棟、7月4日に①フツウ・ノイエ、⑪Leaf house、⑩岩見沢の家、7月30日に⑨下川町環境共生モデル住宅 美桑の審査を周辺環境から建築空間の内外まで詳細な観察と、設計者やクライアントからの説明や質疑などを行った。

最終審査会は、9月1日、札幌市内で開催され、現地審査作品を対象に最終選考が行われた。選考審査は、各委員が各作品に対する見解を述べたのち、候補作品全体について議論、さらには、個々の作品の評価と意義が整理され、長い討議になった。評価の指標は前述の3つの視点からであったが、その3つをすべて満たすような作品については該当する作品を見いだすことはできず、本年度の北海道建築賞は該当無しという結論になった。その後、建築奨励賞の選考に入り、6作品よりもまず、⑧札幌市立大学大学院デザイン研究科棟と⑪Leaf house が選考対象から外れ、4作品に絞られた。その上で、各作品に対して評価と意義が整理され、最終的に委員全員の投票によって、「フツウ・ノイエ」と「岩見沢の家」を本年度の北海道建築奨励賞とした。

「フツウ・ノイエ」は、敷地が持つ自然環境を繊細な感性で捉え、その特徴を素直に建築に取り込むという非常にオーソドックスではあるが、現代建築が繰り広げる様々な空間操作とはまったく別種の言わば正則的な作法が、かえってこの敷地における設計者が抱いた瑞々しい住宅空間を成立させた作品として評価できる。

「岩見沢の家」は、施主と建築家の住宅に対する意思を素直に表現した作品で、住宅の内部を明快な躯体と地形のような床の構成で内部というよりむしろ外部的感性で構成するという設計者の意図を単純な手法でしかも明確に力強く表した作品である。

今回建築奨励賞になったこの2作品から見えてくることは、住宅という建築作品に欠かせないのは、東日本震災後のエネルギー需給の問題からもクローズアップされているような、住宅におけるエネルギーなどの環境性能の数値的な追求や、ややもすると細かい美しさだけが表出するにすぎない空間操作だけではなく、地域の環境とどのように向き合い、その土地でどのような生活をするのか、そのためにどのような住宅をつくるのかという、建築を生み出す根源的とも言える行

為の中にある強い意志とその充実度である。このような営みが住宅を小規模ではあるが、社会的に意味を持つ建築作品に昇華させる可能性を持つ所以であろう。その局面に改めて今回の選考で光を当てることができたのではないかと考えている。

現地審査6作品のうち、4作品は残念な結果となったが、評価の要点を以下に述べ、今後の活躍に期待したい。

- 第一三共札幌支店ビル：札幌の大通り公園沿いの北向きに立地する製菓会社のオフィスである。北側というエネルギー条件としては不利ではあるが、都市景観としてはこの上ない魅力を持つ外部の風景に対して、熱的に充分考慮されたガラスカーテンウォールを使って、気持ちよい執務空間を成立させている。その他の技術もバランスのよいエンジニアリングと言えるが、使える技術のアセンブルを行っただけになっている部分も散見され、自社ビルという条件設定にしては、より先進的な挑戦ができたところがあったのではないかとということが悔やまれる。
- 札幌市立大学大学院デザイン研究科棟：基本計画の段階で考えられた配置計画は、清家清氏のマスタープランの中にどのように新しい建物を配置するかということに対する腐心の後が感じられ、群として構成も設計者の意図がよく表現されている。しかし、その後の実施設計、施工の段階で、基本計画で決定した建築構成のルールを構造、設備とどのように調整し、調和させていくのかという部分に無理が生じているところがあり、結果的に建築としての整理ができていない部分が残念である。
- 下川町環境共モデル住宅 美桑：地元の技術や材料を使い、環境共生住宅のモデルを創ろうとする取組は、事業としてまた、設計者の姿勢としては、意欲的で大変評価のできるものである。しかし、建築として見た場合、全体的な組み立てにおいては、たとえモデル住宅であっても技術を取捨選択し、この計画にふさわしい空間を獲得するという設計者の姿勢が必要だったのではないだろうか。特に1Fの平面計画において、住宅としての空間の意味や必然性に疑問が残る。
- Leaf house：中央にコアを置き、周囲に回廊上の動線とその動線上に閉じる空間と開く空間を配置するという特徴的な平面計画を取った意欲的な住宅である。4方向に意図的に制限された開口部から見える風景によって、外部との関係性がつくられている。しかし、かえって出来上がった空間は、この設計の意図によって閉鎖的になってしまい、外との関係が希薄になってしまっているように感じられる。内部空間の環境的な質の確保は、充分達成されていると言えるが、図式のみからでは、美しいものをつくるという建築としての意味に到達できないのではないだろうかという疑問を抱かせた。

(文責：小篠 隆生)

#### (4) 審査講評

##### ◆ 北海道建築奨励賞 「フツウ・ノイエ」

藻岩山西側に刻まれた谷間に沿って開かれた住宅地。その最端部にこの住宅は静かに建つ。道路よりおよそ1層分下がった敷地を見れば、これより先には谷間と深い森林の他に何も無い。ここだけを取り上げれば別荘地と呼ぶほかないような環境が、札幌の中心市街地にほど近いところに存在していることをあらためて認識する。

約7.2m×7.2mを平面とするほぼキュービックな住宅である。道路からブリッジを渡ってアプローチする2層部分に水回りとダイニングが、また1層部分にはリビングと寝室ともなるフリーなスペースが、田の字をガイドラインとするかのように、それぞれよく整理されてつくられている。ある意味でごく“普通”のこの基本構成に対して、その一角に吹抜けとテラスが交叉しながら楔のように入り込むことで、さらに開口部もここに集約されることで、様々な豊かな表情を内部につくり出している。例えば、木々の間を通して入り込む光の他にも、アルミ壁に反射した間接光や、障子を通した柔らかい光などが、時間とともに繊細に輻輳する。また樹木の緑や陰影も、空間の表情に変化と緻密さを与えている。

ここでの作者の創作の意図は、明確に一点に絞られている。北海道における透明で繊細な太陽光や豊かな樹木による彩りなど、住宅の置かれた自然的環境を微細に捉え、それらに感応することによって住宅を成立させること。それは空間構成を様々に操作することによってそこに現代的

な関係性をつくり出そうとする、現代建築の主とした傾向の対極にあるともいえるだろう。このように光などの空間の性質の側面に意味を見出そうとすること自体は、また実にオーソドックスなことでもあるのだが、あえてそのオーソドックスなことに向き合おうとしていることにこの住宅の意義があるように思われる。さらに、ここで為されている建築的操作の数々が、どれも表現としての突出した角が取れて、さりげなくかつ柔らかい全体として、素直に心地よい空間をつくり出していることに意義があるように思われる。

多くの先達たちの創作によって、北海道の建築が様々なスタイルや方法論を生み出してきたことは事実である。しかし、これらの多様な表現の展開がある一方で、実のところ北海道の建築家たちが深いところで共有財産のように蓄積してきたことのひとつは、意識的であるかどうかにかかわらず、北海道特有の環境に対する感受性でありその方法論であったのではないだろうか。この小さな住宅が優れているのは、作者が環境に対する感覚を磨き、それを建築の方法論としても“身体化”して設計しているからに他ならない。それは作者個人の経験であると同時に、先達たちが築いてきたがゆえのものでもあるのだろう。ふと作者自身がそのことに気づき、それを主題としてこの小品がつけられた。豊かな自然に囲まれたロケーションにおいて、都市住宅であると同時に別荘でもあるようなこの住宅のあり方は、北海道あるいは札幌における“フツウ・ノイエ”にも見えてくる。タイトルは言い得て妙である。

(文責：山田 深)

#### ◆ 北海道建築奨励賞 「岩見沢の家」

ところどころに空地も目立つ住宅地の中であって、約 19m の長い箱形ボリュームが倉庫か何かのように、明らかに周囲とは異なる風情で建っている。カラマツの面皮を残して粗く張られた外壁は、すでに渋めの色合いへと変化しつつあるが、周囲に溶け込むというよりは、静かに何かに対峙しているようにも見える。南側に隣接したグラウンドに向けて大きく開いたガラス面からは、種々雑多なものがこの内側に存在していることを窺い知ることができる。

この長いボリュームの中に、ガレージや個室を収めた3つの箱が間隔を空けて置かれ、それらがブリッジによって繋がれている。作者も述べているように、それはふたつの谷を跨ぐ地形のようなものである。内部は基本的に構造用合板やパイン材などで仕上げられているが、西側の長手壁面には、アンダーに染色された棚が地形を横断するように全体を覆っている。また、スリット状の開口が視線よりも若干低い位置に水平に長い亀裂を入れることで、この地形のような空間は、箱形でありながらも、全体として外部に近い印象をつくり出している。ワンルームのようにつながった空間であるが、ここを構成しているのは、手摺もない谷のような地形であり、そこを横断する濃色の棚であり、長いスリットである。それは近年多く見られるような繊細かつ緩やかに分節されたワンルームとは異なり、強い要素によって構成されているといえることができるだろう。

自然環境の専門家であり様々な趣味を持つ施主が、夫婦ふたりでここをフィールドのようにして住まう。膨大な書籍が棚を埋め、他にも楽器類や陶器、あるいはアウトドア用器具や動物の骨など実に様々なモノが置かれてあるが、それらは施主の活動とともにきちんとした居場所を得て存在しているように見える。施主のこのような生活のあり方があってこそこの住宅であり、作者とともに施主がこの空間をつくり上げているともいえ、空間と人とモノとの幸福な関係がここで成立している。

空間のつくり方や素材の扱いにせよ、あるいは施主のここでの生き方にせよ、実にワイルドである。生活に対する強い意志と、そのための骨太な建築。基本的にシンプルにつくられた住宅ではあるが、それは淡泊であることとは対極にあるだろう。あらためて近年の道内建築家による作品群を思い返してみれば、多種多様であるとはいえ、それらの多くが時代の動きに敏感に反応しつつ、主として洗練と美しさを競う傾向にあるようにも思えてくる。そのことは確実に建築の水準を底上げしている一方で、上品ではあるが線の細い様式化へと向かうことでもあるのではない。道外の建築家によるこの作品が、そのようなことを我々に気づかせてくれるようにも思う。

(文責：山田 深)

## 5. 2 卒業設計優秀作品（日本建築学会北海道支部賞）

### （1）卒業設計優秀作品審査委員会（主査：菅原 秀見君，委員数：6名，委員会開催数：1回）

2011年度卒業設計優秀作品審査委員会においては、「大学」「短大・高専・専門学校」「工業高校」の部門別に候補作品各々について合同で審査を行い、合議の上各賞を選出した。審査に先立って学会の表彰規定における表彰の目的、それに基づく審査の考え方を各審査委員で確認した。

本年度は「大学」の部では昨年と同様に金賞の該当作品がなく、銀賞1点、銅賞2点という選定となった。「短大・高専・専門学校」の部では金賞、銀賞、銅賞各1点を「工業高校」の部では金賞1点、銀賞2点、銅賞1点を選出した。審査後、各委員から落選案に対する講評の必要性、評価を各学校に伝える必要性、審査過程をオープンにする必要性などの意見が出た。また、講評の論点を確認し、各選考作品の講評者の担当を決定した。

審査員：

主査：菅原 秀見君

委員：小倉 寛征君，上遠野 克君，小西 仁彦君，齊藤 文彦君，中山 眞琴君

### （2）受賞者

#### ◆ 大学の部（応募作品数：12点）

- ・銀賞 田中 元君：北海道大学工学部環境社会工学科建築都市コース  
作品名 — 停留所のまち～体感する風景
- ・銅賞 佐藤 友紀君：北海学園大学工学部建築学科  
作品名 — ゆるやかにそそぐーイチバとともにー
- ・銅賞 菅原 仁美君：北海道工業大学空間創造部建築学科  
作品名 — 水の郷

#### ◆ 短大・高専・専門学校の部（応募作品数：3点）

- ・金賞 井沢 祐哉君：釧路工業高等専門学校建築学科  
作品名 — CONNECT～つながりの場～
- ・銀賞 大橋紗梨奈君：札幌建築デザイン専門学校建築工学科  
作品名 — 散歩する図書館
- ・銅賞 宮崎さおり君：札幌建築デザイン専門学校建築工学科  
作品名 — 「自然」と一体になるホール

#### ◆ 工業高校の部（応募作品数：11点）

- ・金賞 安喰 哲君：北海道名寄産業高等学校建築システム科  
作品名 — 名寄えきよこ複合施設 SNOW CRYSTAL  
～（待ち時間を自由に過ごせる地元の巣）～
- ・銀賞 西牟田純基君：北海道名寄産業高等学校建築システム科  
作品名 — おもちこみち  
～地元農家がデザインし続ける名寄の入口～
- ・銀賞 宮川 和也君：北海道札幌工業高等学校建築科  
作品名 — The station of three pillars  
～3つの複合施設～
- ・銅賞 中谷 鴻君：北海道札幌工業高等学校建築科  
作品名 — 過去になる「ミライ」を創る  
～札幌カコ・ミライ資料館～

### （3）審査講評

## ◆大学の部

銀賞・田中君

まちを行き交う人の速度と路面電車の速度に着目し、疲弊する町を再構成したユニークな作品。車窓からの景色が暮らしの背景であり「まちづくり」のショーケースともなっている。奥行感のある空間が構成され、集まって住むことや町を使うことを上手く表現している。図面構成、個別のデザインの洗練度、計画の緻密さはより高いものが期待されたため金賞にはいたらなかったが、2011年という特別な年において、暮らしの情景を提案しようとしたことを評価し、銀賞とした。

(文責：齊藤 文彦)

銅賞・佐藤君

小樽の妙見市場は戦後、樺太や満州からの引揚者により川の岸にバラック店舗をつくり高いを始めたのがはじまりである。それから70年余り小樽の台所のひとつを担ってきたが、街の高齢化と過疎とともに市場の経営者自体も高齢化や後継者不足となり、縮小が強いられている。この市場に再び人が集まる新しい拠点にすべく計画が本案である、川の上に建つ市場としての現市場を新しいスタイルとコンセプトで再生したものであり、やわらかでうねるような建築空間が川の上を這うように展開している。現市場にはない親水空間などにより川との関係も生まれ場所性が最大限に表現され、新しい息吹と鮮度を感じさせる興味深い秀作となっているが、全体にもう一つリアリティが不足しており心残りである。

(文責：小西 彦仁)

銅賞・菅原君

建築というものは最初この作品のようにぼんやりとしたイメージで白濁した気憶から晩起される。それは、きっと絵本のような物と同位なのかもしれない。僕はこのような表現がとっても好きだし、実際、美しいとも思う。出しゃばっていない建築表現にも好感がもてる。でも、多分”金”になれなかった理由は、建築へのアプローチの仕方（前菜といってもいいだろう）が単純だったせいかもしれない。表現力は素晴らしいのだけれど、肝心の建築がこれでいいのだろうか。とっても何か、安易であるような気がしてならない。残念だが、決して埋没しているようには見えなかった。これだけの表現では、我々を納得させることができない。でも、やっぱり好き。

(文責：中山 眞琴)

## ◆短大・高専・専門学校の部

金賞・井沢君

釧路市の中心部の衰退に問題意識を持つ作者が、新しい集合住宅の提案により町に賑わいを取り戻そうとする計画である。

既存の「公共施設」や「まちなみ」を丁寧に分析した上で、「緑の動線」「変化していくファサード」「回遊性のある歩道」という3つの建築的手法を提案し、それらを建築デザインにしっかりとまとめあげている点が高く評価された。緻密なCGパースからは作品への愛着が感じられるとともに、概念図を用いた分かり易いプレゼンテーションにも好感が持たれた。

以上を総合的に考慮して金賞にふさわしい作品であると判断した。

(文責：小倉 征寛)

銀賞・大橋君

地方都市の町役場に隣接する盛土による閉鎖的な土地を元の勾配にもどしながら、接地性を計った図書館のプロジェクトです。

階段状の広場を昇りながら、ガラス越しに見える内部空間を感じ、又、エントランスから下りながらメインになる図書スペースへの天井高を含めた空間のボリュームを楽しみながらのアプローチは、外部の景観も取り込んだものです。丁寧に考えられた作品です。

吹抜に設けた2階の閲覧スペースの形状が楽しくデザインされ、外部の広場からも感じられる様ならより良くなったと思います。

(文責：上遠野 克)

#### 銅賞・宮崎君

札幌市内に現在ホールのある場所での計画であり、敷地の選定から現在のホール建築への批評精神が根底にあることが伺える。

空間構成はシンプルである。ホールをはさみ東側に観客用のホワイエ、西側に出演者用のホワイエを設け、大通公園に面する南側の3層部分に両者が会う交流ラウンジを設けている。ホールとしての平面計画、断面計画、交流ラウンジの具体的な機能のイメージなどに問題はあるが、吹奏楽の経験者としてバックヤードに豊かな空間を確保したこと、観客との交流の場を設けたこと、それらを立地環境に活かし明快に整理していることから銅賞に値すると判断した。

(文責：菅原 秀見)

### ◆ 工業高校の部

#### 金賞・安喰君

JR名寄駅に隣接する複合施設であるが、プログラムの組み立て方、空間構成、デザイン手法、構造の発想、表現手法にいたるまで完成度が高い。雪の結晶のイメージと構造の合理性を背景とするハニカムのデザインが印象的な作品である。施設のテーマは市民の居場所づくりであるが、市民の立場でまちが抱える問題を検討し、市民にとって必要な、まちにとって必要な「場所」のあり方を多くの議論を経て組み立ててきたプロセスが創造できる。作品の完成度の高さもあるが、建築設計として考えなければいけないプロセスがしっかりしており、それがうまく表現されていることから、審査委員満場一致で金賞に値すると判断した。この作品の工業高校の建築教育に与える影響は大きいと思う。ぜひ、幅広く建築教育関係者に見てほしい。

(文責：菅原 秀見)

#### 銀賞・西牟田君

道北の名寄市に活気を呼び戻す新たな空間の提案である。地元農家が作る餅米による数種類のお餅を食べながらイベントが開催できる建築物であり、これにより街の再生を狙っているユニークな案である。北国らしく雪の結晶をデザインコードにY字型に建物が分節してやがて六角形となりそれが広がって行き各種類の餅を売るゾーンになっている。

切妻型の断面はヒューマンスケールであり屋台をも彷彿させ更に物見塔までもが同じモチーフでデザインされており一貫性の中にありながらバリエーションを持ち合わせている。

内部は作者によると「もちもちとした素材」と表記があり更に興味がわく。実際にこの様な空間が名寄市に出来てほしいとさえ思った秀作である。

(文責：小西 彦仁)

#### 銀賞・宮川君

道内での道の駅もすでに113となり、建築のプロトタイプとなりうるのだろう。この設計は、国道を挟む両側の高低差のある敷地を利用した3棟の建物による道の駅計画案である。矩形の3棟の施設が放射状に並び、段差ある敷地の段差解消と広場のような場所性を確保することに成功しており、銀賞とした。

シャープな施設構成にマッチした青地に白の図面表現も魅力的で高い評価を得た。最後に工業高校の卒業設計巡回展などがあると、生徒への刺激になるだろう。

(文責：齊藤 文彦)

銅賞・中谷君

札幌の「過去」を知り「未来」を語り合うことで「まち」への愛着を育むための資料館である。卒業して札幌を離れることになった作者が、札幌への愛着を再認識したことから設計が始まっていることが興味深い。その愛着が作品への情熱となり、複雑な平面計画、独創的なデザインの設計をまとめることができたといえるだろう。

立体的で回遊性のある展示室配置とし、来館者に時間の移ろいを感じさせる工夫や、見学中の気分転換への配慮などリアリティーを持って設計している点も評価された。

以上を総合的に考慮して銅賞にふさわしい作品であると判断した。

(文責：小倉 寛征)

### 5. 3 優秀学生・生徒（日本建築学会北海道支部賞）

2011年度道内大学・短大・高専・工高優秀学生・生徒として以下の学生・生徒を表彰した。

大泉 翔平君・濱田 直浩君：北海道大学工学部環境社会工学科建築都市コース  
中林 陽子君・渡辺 望君：北海学園大学工学部建築学科  
根本 周君・石岡 里美君：北海道工業大学工学部建築学科  
鳴海 玲子君・阿部 一茂君：室蘭工業大学工学部建設システム工学科  
吉田 理沙君・塩川 泰規君：東海大学芸術工学部建築・環境デザイン学科  
亀田 博君・関口 由晃君：道都大学美術学部建築学科  
小林 有里君・堀 彩菜君：札幌市立大学デザイン学部デザイン学科空間デザインコース  
ジムダリー君・岩田 潤也君：釧路工業高等専門学校建築学科  
安田 明美君：北海道職業能力開発大学校建築技術システム技術科  
野戸 淳平君：北海道職業能力開発大学校建築科  
中谷 鴻君：北海道札幌工業高等学校建築科  
井川 恭兵君：北海道札幌工業高等学校定時制建築科  
本保 力也君：北海道小樽工業高等学校建設科建築デザインコース  
竹花 和君：北海道小樽工業高等学校定時制建築科  
斉藤はつめ君：北海道函館工業高等学校建築科  
竹中 溪君：北海道函館工業高等学校定時制建築科  
早川 大貴君：北海道旭川工業高等学校建築科  
武田 恭兵君：北海道旭川工業高等学校定時制建築科  
浅野 勇太君：北海道苫小牧工業高等学校建築科  
渡邊 丈准君：北海道苫小牧工業高等学校定時制建築科  
高橋 駿輝君：北海道帯広工業高等学校建築科  
中村 潤也君：北海道釧路工業高等学校建築科  
西牟田純基君：北海道名寄産業高等学校建築システム科  
菅野 雅樹君：北海道美唄工業高等学校建築科  
渡部 匠君：北海道室蘭工業高等学校建築科  
中原 和稔君：北海道留萌千望高等学校建築科  
近藤 宏紀君：北海道北見工業高等学校建設科

### 5. 4 日本建築学会北海道支部功労賞

本賞は、当支部の維持・発展にとって功績・功勞のあった支部に所属する会員に対して感謝の意を表するとともに、更なる支部活動の活性化と意識の高揚を図ることを目的としている。2011年度は、該当する法人・賛助会員等はなかったが、今後も引き続き表彰する予定である。

## 5. 5 日本建築学会北海道支部技術賞

(1) 北海道支部技術賞選考委員会 (主査：緑川 光正君, 委員数：10名 委員会開催数2回)

選考委員：支部長, 学術委員会委員長, 各専門委員会主査の計10名

開催日時：

第1回 1月26日(木)17:30-18:00

第2回 2月21日(火)15:30-16:30 (選考委員会WG)

場所:日本建築学会北海道支部会議室

### (2)受賞者

#### ◆北海道支部技術賞

山脇克彦君 (株式会社北海道日建設計)

石丸修二君 (株式会社北海道日建設計)

塩崎征男君 (三井住商建材株式会社)

表彰技術名—陸別小学校多目的ホールにおける

集成材格子梁による自由曲面屋根システムの開発

### (3)審査経緯・講評

本賞は、北海道における創造性豊かな建築・都市に関する技術の開発者、継承者等を表彰することにより、北海道の建築界の技術の向上に資するために設けられた賞である。2011年12月15日(木)～2012年1月15日(日)の応募期間に2件の応募があった。

北海道の建築界の技術の向上に資するものであることを、地域性、独自性、有効性、新規性等の4つの観点から評価する評価基準に従って、第5回北海道支部技術賞選考委員会を計2回開催して審査した結果、1件の表彰対象者を決定した。

当該技術の特徴として以下の点が挙げられる。

- ・厳冬期には-30℃を下回る陸別町において、夏冬の寒暖差70℃という厳しい気候風土から児童達を守り包み込む空間とするため、RC造壁を配置した校舎の東西北面は外断熱で熱負荷を抑制するとともに、耐震性能、耐火性能、防音性能を確保し、南面は開放的な木造の柱と曲面格子梁を用いて暖かな日差しを取込むことにより、熱負荷コントロールと構造形式を合致させた建築形態とし、ダイナミックで温もりのあるハイブリッド架構を実現している。

- ・RC造架構は、耐震性能を負担するだけでなく、カテナリー曲線を活かした木造架構端部に生じるスラスト力を処理することで、木造架構屋根形態の自由度を高め、新しい自由曲面と木造格子梁の意匠を実現している。

- ・木造とRC造の接合部は、せん断力と圧縮力のみを伝達する極めて簡素なボルト接合とし、木材の軽やかさ、柔らかさ、暖かさを阻害しない意匠としている。

- ・ななめ配置の格子梁は、一方向を2次曲線で構成し、直交梁を短い直線材に近似した構成とすることで、鉄筋とエポキシ樹脂による梁交点の両方向剛接合を可能にし、施工性を向上させている。

- ・陸別町近辺の森林からのカラマツ・トドマツ材を、構造材から内装材まで各々の特性を活かして適材適所に使用することで、地場産業に一定の経済効果をもたらし、また建設時から児童や地域住民を対象に、現場見学会や木構造材への寄せ書きイベントを実施し、さらに子どもたちから地域住民まで、本建物を日常的に利用することにより、地場産業への意識と誇り、愛着心を向上することができた。

以上のように、当該技術は、アーチ効果による架構形態、集成材の2次曲線加工および施工技術により、木造とRC造のハイブリッド構造による新しい建築形態を実現し、さらには地場産業への誇りと愛着心を醸成することにも寄与している。よってここに日本建築学会北海道支部技術



賞を贈るものである。

(文責：緑川 光正)

## 6. 北海道建築作品発表会の実施

### (1) 北海道建築作品発表会委員会（主査：米田 浩志君，委員数：3名，実行委員数：10名，委員会開催数：5回（実行委員会4回を含む））

2011年12月1日の発表会に向けて第31回北海道建築作品発表会委員会及び実行委員会が開催された。3名によって構成される北海道建築作品発表会委員会は1回開催され、メールによる会議を複数回行った。その後、実行委員7名が加わった実行委員会は4回開催された。

実行委員会の具体的な作業としては、各スケジュールの計画、応募要項の作成、作品の受付、プログラム編成、作品のデータ集約などである。発表会場は、例年北海道立近代美術館講堂で開催していたが改修工事のため、今回は北大学術交流会館にて開催した。

発表会当日は、第31回建築作品発表会作品集 VOL・31 を発刊した。また、発表会の内容について、北海道建築士事務所協会誌「ひろば」2011に実行委員の小篠隆生氏が執筆した。また、日本建築学会「建築雑誌」2012/3月号に齊藤雅也氏が執筆した。

### (2) 北海道建築作品発表会の開催

期日：2011年12月1日（木曜日）

会場：北大学術交流会館

発表作品数：29作品

2010年の30回記念発表会を無事終え、今年は第31回目を迎えた。発表会のプログラム構成はほぼ完成されてきているものの、より効果的な発表及び議論の場となるよう建築作品発表会委員会では議論を重ねてきた。特に発表会後半のフォーラムの司会者の人選や時間配分等には検討を要した。その結果、発表者と質問者との間で交わされる議論も深まり、さらにその作品の本質に訴求するライブ感を作り上げられたと確信する。

様々な建築家からスライドを交えながら口頭で発表される作品群は、ビジュアルに訴える発表形式もあって、今回の作品発表会も、専門家以外の方々や若い世代の参加者が目立った。今年も来場者は300人を超えた。「北海道建築作品発表会作品集 2011 VOL.31」を発刊。

## 7. 特別委員会

### 7. 1 事業主査連絡会（事業系5委員会の主査および事業系担当常議員）

本連絡会では、事業系5委員会の事業進捗状況と連携、その際の問題点等の把握、常議員会へ改善提案等の活動を行うこととしている。過去議題にあがった事項の対応として、本年度についても建築文化週間中に第36回の北海道建築賞表彰式と記念講演会が実施された。また、卒業設計審査委員会より出されていたHPへの入選作品の掲載については、HP管理委員会との連携し最新年度までが掲載されている。

### 7. 2 総務委員会（委員長：菊地 優君，委員数：4名，委員会開催数1回）

経理関連業務としては、支部の毎月の収入・支出内容についての確認、経理執行状況と予算との比較検討、全体の財務管理を行った。収支状況について、四半期に一度の頻度で、常議員会にて報告した。

日本建築家協会北海道支部との連携に関しては、合同委員会（1回）を開催して、両団体の活動に関する情報交換を行った。また、両団体の合同企画として、ジョイントセミナー(1回)を実

施した。

### 7. 3 ホームページ管理委員会（主査：齊藤 雅也君，委員数：3名，メール等による情報交換を数回実施）

平成23年度は主に以下の事項について実施した。

- 1) 支部研究発表会の電子投稿システムの運用を支援した。
- 2) 支部主催、支援事業等の告知を行なった。
- 3) 学術委員会、各専門委員会等のウェブ掲載内容の更新を促し、最新情報の掲載に務めた。

### 7. 4 2011年東日本大震災調査委員会（申請者：岡田 成幸君，委員数：14名＋学生5名）

2011年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震により、東北並びに関東地方において震動及び津波を原因とする壊滅的な被害が発生しました。この地震による北海道の直接的被害は小さいとはいえ、太平洋沿岸部において津波による浸水被害が発生し1名の犠牲者が報告されています。この地震は地震観測史上、日本及び周辺で発生した最大規模を持つ地震であり、その被災地域は広域に亘り全国規模での調査が求められました。この被害の実態を調査し北海道の地震防災対策への基礎資料とすべく、また全国規模調査への協力支援とすべく、以下に示す2つの調査班で構成される調査委員会を立ち上げ、その調査活動費用の一部を支部に申請した災害調査委基金から拠出し、その成果として下記1.については調査報告書（DVD版）を、また下記2.については調査報告書を作成しました。

#### 1. 東北地方を中心とする被災建物及び津波避難施設調査班

総括担当者：岡田成幸

目的及び実施内容：当該地震の被災地域の住様式・建築構法は北海道と類似する点が多く、地震動との関係において被害の実態を掴むべく、北海道周辺に想定されている巨大地震への対策への基礎資料構築を行った。

#### 2. 北海道を中心とする津波避難施設調査班

総括担当者：南 慎一

目的及び実施内容：北海道における巨大津波を想定した冬季の津波避難施設のあり方を検討するため、津波避難の実態調査及び津波避難施設の被害状況調査並びに津波避難施設の現況調査を行った。

## 8. 講習会・シンポジウム等の開催

### 8. 1 講習会

#### (1) 本部主催講習会(報告会)

名 称	期 日	会 場	講 師	参加者数
2011年東北地方太平洋沖地震および一連の地震災害調査報告会	2011.8.9	ホテルノースシティ	岡田成幸君 他5名	60名

#### (2) 支部委員会主催講習会(セミナー)

該当なし

### 8. 2 講演会

#### (1) 本部主催講演会

該当なし

(2) 支部主催講演会

名 称	期 日	会 場	講 師	参加者数
記念講演会 「建築構成の修辞と倫理、そして詩学」	2011.7.2	札幌市立大学	坂本一成君	約 200 名
建築文化週間「第 36 回北海道建築賞表彰式・記念講演会」	2011.11.4	北海道大学遠友学舎	赤坂真一郎君、 長坂大君	約 90 名
第 31 回北海道建築作品発表会	2011.12.1	北海道大学学術交流会館講堂	作品数 29 点	約 300 名
「建築空間の配置・配列と間取り」	2011.12.9	北海道函館工業高等学校	那須 聖君	39 名
「北海道における建築文化財のながれ」	2012.2.8	北海道北見工業高等学校	羽深久夫君	32 名

(3) 支部委員会主催講演会

名 称	期 日	会 場	講 師他	参加者数
「新たな公共空間の計画・デザイン・マネジメント～現場の人が語る札幌駅前地下歩行空間～」(都市計画専門委員会)	2011.7.1	札幌市立大学サテライト大会議室	星 卓志君 他 2 名	約 70 名
建築文化週間「地震防災体験学習 in まくべつ」(都市防災専門委員会)	2011.10.1	幕別町は百年記念ホール	北大, 釧路高専, 北総研	42 名
特別講演会 「世界の民家にみる自然エネルギー技術」(環境工学専門委員会)	2011.10.27	北海道大学工学部 B12 教室	木村建一君	85 名
公開研究会「真駒内小学校のこれまでとこれから」(建築計画専門委員会+本部建築計画委員会)	2012.2.29	真駒内小学校	森 傑君 他 4 名	39 名
第 6 回環境工学系・卒業論文発表会 EGGs11(環境工学専門委員会)	2012.3.9	北海道工業大学	発表題数 48 題	83 名
Capital Spaces : London's complex evolving public spaces(都市計画専門委員会)	2012.3.23	北海道大学工学部 MUTSUMI ホール	マッシュー・カルモナ君	20 名

8. 3 展示会

開催日	名 称	会 場	参加者数
2011.5.11 ～5.13 5.19～23 6.3～6.5	全国大学・高専卒業設計展示会	室蘭工業大学  東海大学 北海道大学	202 名  210 名 112 名

11.22～24		釧路工業高等専門学校	150名
2011.7.6 ～11.12	道内工高卒業設計優秀作品巡回展	道内工高 12 校	合計 437 名

#### 8. 4 見学会

開催日	見学場所	解説者	参加者数	主催
2011.11.10	「双葉工業社：はまなす工場他」 見学会	現場担当者	28名	構造専門委員会
2011.11.15	「北海道工業大学新体育館施工 現場」見学会	現場担当者	29名	構造専門委員会 材料施工専門委員会
2011.11.23	「下川町エコハウス」見学会	櫻井百子君	17名	北方系住宅専門委員会
2012.2.29	公開研究会「真駒内小学校のこれ からとこれまで」	森 傑君	53名	建築計画専門委員会 ＋本部建築計画委員会

#### 9. 本部関連事業・その他

##### 9. 1 2011 年度支部共通事業設計競技の実施

(1) 共通事業設計競技審査委員会（主査：川人 洋志君，委員数：5名，委員会開催数：1回）

委員会活動として設計競技審査会を2011年7月20日、午後6時より日本建築学会北海道支部会議室に於いて、5名の委員全員出席のもと開催した。本年度の設計課題は「時を編む建築」であり、8案の応募があった。5名の委員全員による活発な討議を経て3案を支部入選案として決定した。

支部審査員：

主 査： 川人 洋志君

委 員： 赤坂 真一郎君，小西 彦仁君，那須 聖君，山之内 裕一君

(2) 審査講評

設計競技審査会を2011年7月20日、午後6時より日本建築学会北海道支部会議室に於いて、5名の委員全員出席のもと開催した。本年度の設計課題は「時を編む建築」であり、8案の応募があった。5名の委員全員による活発な討議を経て3案を支部入選案として決定した。入選案3案とも道内からの応募であった。支部入選案3案は、残念ながら全国審査で入選はなかった。今後の進展を期待したい。以下に支部入選3案の審査評を記す。

「Repetition Landscape 海岸林における建築の生成と循環」

石塚孝太郎・札幌市立大学大学院

北海道江差町にある砂浜海岸林を敷地としている。海岸林の持続と地域活動の活性化を支える建築的装置の構想である。素晴らしい着眼点であることと共に海岸林の持続を疎外する一因となるギャップ（倒木や伐採などによって生まれる森林の空隙）の拡大を阻み地域の人々に活動の足場を与えるため作者によって企図された装置が、造形力に富み、巧みに表現されていることが評価

された。しかし、その装置が、果たして企図されたように機能しうるものなのかどうか疑念を持たざるを得なかったことが悔やまれる。

(文責：川人 洋志)

「つなぐもの」

銚館亮治、宮平 祐、高橋佑介-室蘭工業大学大学院

歴史は常に積み重ねられそして繰り返される。都市は経済原理の上に成り立ちその状況が変化したとたん編成され直される。それはレイヤーを重ねられながら一方でその編みこみが劣化して綻んでくるかのようなものである。今まで成り立っていた状況が変化してくることである。この案はその綻びに新たに現代が要求しているものを用いてその綻びを埋める。そのことにより新たなムーブメントが起き失われた繋がりを蘇らせようとする、その手法はけして大袈裟ではなく人間の尺度に立つスケールでその綻びが埋められており日常のほんの少しの変化により差異をつくりだそうとするこの案の社会的解決に感嘆を与えたい。

(文責：小西 彦仁)

「ときとともに、ひととともに住まう」

林原麻莉・長尾美幸-北海道大学大学院

かつて炭坑住宅として就業をともにする人々の住んでいた住宅群、そこでは就業を基盤とした日々の生活が、共有されうる時を提供し、人々を結びつけていた。半数が空き家となり、就業も変化した現在では、そこにいる人々を結びつける新たな役目が空間に必要とされる。この提案では、炭坑住宅の形態・配置を減築や増改築により操作し、住民による住宅周辺の手入れ・近隣コミュニティの関係を新たに生み出すことで、人々をこの場所に定着させることを考えている。共有スペースと減築部分の空間がパッチワーク状にネットワークを形成する仕組みを提示することで、住民が介入できる空間的方法によって、人々が共有する時を編む余地を創成している。

(文責：那須 聖)

## 9. 2 作品選集支部選考の実施

### (1) 作品選集支部選考部会活動報告(主査：小澤 丈夫君：委員数 8 名：委員会開催数 2 回及び 現地審査)

2011 年度応募作品数 6 作品に対して、3 日に渡る現地審査(日程の都合上、一部は委員個別の現地審査による)並びに 2 回にわたる選考委員会を開催し、本部にて決定された支部推薦枠である 3 作品を選考し本部へ推薦した。

審査員：主査：小澤 丈夫君

委員：植田 暁君、海藤 裕司君、加藤 誠君、下村 憲一君、高松 康二君、那須 聖君、山脇 克彦君

### (2) 作品選集支部選考の結果

支部応募作品数 6 点

支部選考通過作品数 3 点(本部採用 2 点)

作品選集掲載作品

#### ・KM(作品選集掲載作品)

川人 洋志君：川人建築設計事務所

菊池 規雄君：WANDERARCHI

#### ・新千歳空港国際線旅客ターミナルビル(作品選集掲載作品)

宮川 浩君：日建設計

赤司 博之君：日建設計

向井一郎君：日建設計

阪本 道昭君 : 日本空港コンサルタンツ  
竹内 義博君 : 日本空港コンサルタンツ  
佐々木 仁君 : オーヴ・アラップ・アンド・パートナーズ  
鳥谷部 隆司君 : 久米設計

### 9. 3 建築文化週間

#### ①テーマ:「地震防災体験学習 in まくべつ」

主 催: 日本建築学会北海道支部、北海道立総合研究機構北方建築総合研究所

共 催: 幕別町

後 援: 北海道

日 時: 2011.10. 1.(土)

場 所: 幕別町百年記念ホール

プログラム

1. 地震と建物の耐震性の話
2. 室内安全対策の話
3. 耐震診断の話
4. 避難食づくり
5. 非常持出し品

講 師: 北海道大学, 釧路高専, 北総研

参加対象: 町民(親子), 市町村職員, 建築技術者, 学会員

参加者: 42名

#### ②テーマ: 歴史的建造物の見学「建築散歩～小樽・積丹編」

主 催: 日本建築学会北海道支部

共 催: 余市町教育委員会, 積丹町教育委員会

後 援: 小樽市教育委員会、日本建築家協会北海道支部

日 時: 2011.10. 1(土)

場 所: 小樽市、余市町、積丹町

主な見学先: 旧下ヨイチ運上家、旧福原漁場、ヤマシメ福井邸、旧茨木家中出張番屋など

講師: 本学会北海道支部歴史意匠専門委員会委員, 余市水産博物館浅野敏昭氏

参加対象: 会員, 一般市町村民, 行政職員

参加者: 70名

#### ③テーマ: 第36回(2011年度)北海道建築賞表彰式・記念講演会

主 催: 日本建築学会北海道支部

日 時: 2011.11. 4(金)

講 師: 赤坂真一郎「フツウ・ノイエ」の設計(第36回北海道建築奨励賞)

長坂 大「岩見沢の家」の設計(第36回北海道建築奨励賞)

場 所: 北海道大学遠友学舎

参加対象: 一般市民, 建築関係者, 学生

参加者: 約90名

## 10. 建築関連団体との活動

### 10. 1 AIJ-JIA 合同委員会 (委員数(AIJ): 8名, 開催数: 1回)

本委員会では、AIJ, JIA 両団体の活動の活性化を目的として、合同の企画等に関わる事項について協議した。協議内容は、①AIJ-JIA ジョイントセミナーの企画、②両団体の活動内容、③両団体のイベント紹介と参加要請についてである。AIJ-JIA ジョイントセミナーは、第19回として2012年3月24日(土)に「私が北海道で学んだこと」講師: 荒谷登君(北海道大学名誉教授)を開催した。

### 10. 2 北海道建築設計会議 (幹事会開催数: 9回)

本会議は、日本建築学会北海道支部、北海道建築設計事務所協会、日本建築家協会北海道支部、北海道建築士会、北海道まちづくり促進協会、北海道設備設計事務所協会、日本構造技術者協会北海道支部、日本建築積算協会北海道支部、建築設備技術者協会北海道支部及び北海道建築技術協会の10団体により構成されている。本会からは、本井和彦と田村隆の2名を参加させた。幹事会においては、各団体の法人化等について情報交換や意見交換を行った。

11. 共催・後援

期 日	名 称	会 場	主 催
2011.7.1	「レーモンドの失われた建築」講演会	かでの 2.7	新建築家技術者集団北海道支部
応募締切 2011.7.20	第3回 JIA・テスクチャレンジ設計コンペ		(社)日本建築家協会北海道支部
2011.7.30 他	2011 年度・JSCA 北海道支部実務者研修「応用編」	北海道建設会館	(社)日本構造技術者協会北海道支部
応募締切 2011.8・10	第36回北の住まい住宅設計コンペ		(社)北海道建築士事務所教会
2011.8.9 ～8・10	第5回日本・韓国・中国国際シンポジウム 長寿命建物のためのコンクリートの性能向上 2011	北方建築総合研究所	日・中・韓シンポジウム実行員会
2011.9.1 ～9.10	「札幌聖ミカエル教会」アントニン・レーモンド展	北海道大学遠友学舎	「札幌聖ミカエル教会」アントニン・レーモンド展実行委員会
2011.9.13	コンクリートの日 in Hokkaido 出前講座 大学から実務者へ～情報技術の発信と情報交換～	釧路工業高等専門学校	(公社)日本コンクリート工学協会北海道支部
2011. 9.16	「札幌聖ミカエル教会」アントニン・レーモンド展(小樽巡回展)	田上義也記念室	NPO 小樽ワークス
2011.10.26	サステナブルキャンパス構築のための国際シンポジウム	北海道大学学術交流会館	北海道大学
2011.11.12 ～11.13	全国高等専門学校デザインコンペティション 2011in 北海道	釧路工業高等専門学校	高等専門学校連合会
2011.12.8 ～12.9	平成 23 年度地震防災セミナー	中標津町総合文化会館 釧路市消防本部 3 階体育館	北海道
2011.12.18	東日本大震災と北海道—生活環境の復興を振り返る	札幌市立サテライトキャンパス	「東日本大震災と北海道」実行委員会 藤女子大学
2011.12.20	「空気調和・衛生工学会北海道支部地区講演会」	北海道大学百年記念会館	(社)空気調和・衛生工学会北海道支部
2012.2.15	第 22 回旭川建築作品発表会	蔵囲夢リハーサルホール	旭川まちなみデザイン推進委員会
2012.3.2	「すべての建築士のための総合研修」	北海道第 2 水産ビル	(社)北海道建築士会
2012.3.8	第 3 回都市地域セミナー	北海道大学学術交流会館	(公社)日本都市計画学会北海道支部
2012.3.15	第 62 回日本木材学会大会(札幌)公開シンポジウム	北海道大学学術交流会館	日本木材学会



II 2011 年度収支決算報告

2011 年度 貸借対照表

(単位:円)

科目名称		当年度	前年度	増減
I 資産 の 部	1 流動資産			
	現金預金	2,501,135	2,351,851	149,284
	未収金	0	0	0
	前払金	163,999	175,999	△12,000
	仮払金	36,463	8,680	27,783
	流動資産合計	2,701,597	2,536,530	165,067
	2 固定資産			
	(1) 基本財産	0	0	0
	基本財産合計	0	0	0
	(2) 特定資産			
	学術振興基金引当資産	3,080,000	3,170,000	△90,000
	災害調査研究基金引当資産	1,900,000	2,200,000	△300,000
	支部基金引当資産	2,810,000	2,810,000	0
	退職給付引当資産	660,000	600,000	60,000
	特定資産合計	8,450,000	8,780,000	△330,000
	(3) その他の固定資産			
	敷金	561,550	561,550	0
その他の固定資産合計	561,550	561,550	0	
固定資産合計	9,011,550	9,341,550	△330,000	
<b>資産の部合計</b>	<b>11,713,147</b>	<b>11,878,080</b>	<b>△164,933</b>	
II 負債 の 部	1 流動負債			
	未払金	0	0	0
	前受金	30,000	30,000	0
	預り金	21,885	10,833	11,052
	仮受金	586,695	561,550	25,145
	賞与引当金	0	0	0
	流動負債合計	638,580	602,383	36,197
	2 固定負債			
	退職給付引当金	660,000	600,000	60,000
	固定負債合計	660,000	600,000	60,000
<b>負債の部合計</b>	<b>1,298,580</b>	<b>1,202,383</b>	<b>96,197</b>	
III 正 味 財 産 の 部	1 指定正味財産			
	指定正味財産合計	0	0	0
	(うち基本財産への充当額)	(0)	(0)	(0)
	(うち特定資産への充当額)	(0)	(0)	(0)
	2 一般正味財産	10,414,567	10,675,697	△261,130
	(うち基本財産への充当額)	(0)	(0)	(0)
(うち特定資産への充当額)	(7,790,000)	(8,180,000)	(△390,000)	
<b>正味財産合計</b>	<b>10,414,567</b>	<b>10,675,697</b>	<b>△261,130</b>	
<b>負債及び正味財産合計</b>	<b>11,713,147</b>	<b>11,878,080</b>	<b>△164,933</b>	

2011年度 正味財産増減計算書

北海道支部

(単位:円)

科目名称	当年度	前年度	増減	科目名称	当年度	前年度	増減
I 一般正味財産増減の部							
1 経常増減の部							
[1] 経常収益				[2] 経常費用			
(1) 特定資産運用益	( 28,294 )	( 32,364 )	( △4,070 )	(1) 事業費	( 4,560,659 )	( 5,213,561 )	( △652,902 )
特定資産受取利息	28,294	32,364	△4,070	研究集会事業費	( 2,171,091 )	( 2,753,246 )	( △582,155 )
(2) 事業収益	( 3,100,463 )	( 2,995,595 )	( 104,868 )	研究集会事業費	2,171,091	2,753,246	△582,155
研究集会事業収益	( 2,425,463 )	( 2,820,595 )	( △395,132 )	文化事業・展示会費	( 348,672 )	( 351,203 )	( △2,531 )
研究集会事業収益	2,425,463	2,820,595	△395,132	文化事業費	316,800	320,300	△3,500
文化事業収益	0	0	0	展示会事業費	31,872	30,903	969
受託事業収益	500,000	0	500,000	調査研究事業費	996,460	1,402,523	△406,063
その他の事業収益	175,000	175,000	0	表彰・顕彰事業費	( 619,891 )	( 706,589 )	( △86,698 )
(3) 受取寄付金	0	0	0	表彰関係費	609,110	692,495	△83,385
受取基金寄付金	0	0	0	設計競技費	10,781	14,094	△3,313
(4) 雑収益	( 263,960 )	( 332,496 )	( △68,536 )	委託事業費	424,545	0	424,545
雑収益	( 263,960 )	( 332,496 )	( △68,536 )	(2) 管理費	( 5,743,188 )	( 5,592,837 )	( 150,351 )
受取利息	659	755	△96	会議費	( 258,570 )	( 255,483 )	( 3,087 )
その他の雑収益	263,301	331,741	△68,440	総会費	192,050	201,853	△9,803
(5) 他会計からの繰入額	( 6,650,000 )	( 7,423,000 )	( △773,000 )	役員会費	66,520	36,280	30,240
基本部門からの繰入額	( 6,650,000 )	( 5,565,000 )	( 1,085,000 )	運営費	0	17,350	△17,350
支部費	1,500,000	1,504,000	△4,000	給与手当	1,846,650	1,807,964	38,686
経営助成費	1,950,000	2,010,000	△60,000	福利厚生費	314,309	280,632	33,677
事業促進費	300,000	1,015,000	△715,000	退職給付費用	60,000	60,000	0
支部研究補助費	200,000	200,000	0	通信費	128,606	140,745	△12,139
教育文化事業交付金	542,000	536,000	6,000	印刷費	99,992	70,585	29,407
大会交付金収入	0	0	0	消耗品費	114,374	25,745	88,629
支部事務費	300,000	300,000	0	電算費	0	0	0
支部事務所費	1,858,000	0	1,858,000	雑費	437,002	469,192	△32,190
会館部門からの繰入額	( 0 )	( 1,858,000 )	( △1,858,000 )	事務所費	2,483,685	2,482,491	1,194
支部事務所費	0	1,858,000	△1,858,000				
経常収益計	10,042,717	10,783,455	△740,738	経常費用計	10,303,847	10,806,398	△502,551
当期経常増減額	△261,130	△22,943	△238,187				
2 経常外増減の部							
当期経常外増減額	0	0	0				
当期一般正味財産増減額	△261,130	△22,943	△238,187				
一般正味財産期首残高	10,675,697	10,698,640	△22,943				
一般正味財産期末残高	10,414,567	10,675,697	△261,130				
II 指定正味財産増減の部							
当期指定正味財産増減額	0	0	0				
指定正味財産期首残高	0	0	0				
指定正味財産期末残高	0	0	0				
III 正味財産期末残高	10,414,567	10,675,697	△261,130				

2011 年度 収支計算書

北海道支部

(単位:円)

科目名称	予算額	決算額	差異	科目名称	予算額	決算額	差異
<b>I 事業活動収支の部</b>				<b>I 事業活動収支の部</b>			
1 事業活動収入				2 事業活動支出			
(1) 特定資産運用収入	( 5,000 )	( 28,294 )	( △23,294 )	(1) 事業費支出	( 4,125,000 )	( 4,560,659 )	( △435,659 )
特定資産利息収入	5,000	28,294	△23,294	研究集會事業費支出	( 2,200,000 )	( 2,171,091 )	( 28,909 )
(2) 事業収入	( 2,375,000 )	( 3,100,463 )	( △725,463 )	研究集會事業費支出	2,200,000	2,171,091	28,909
研究集會事業収入	( 2,200,000 )	( 2,425,463 )	( △225,463 )	文化事業・展示会費支出	( 390,000 )	( 348,672 )	( 41,328 )
研究集會事業収入	2,200,000	2,425,463	△225,463	文化事業費支出	360,000	316,800	43,200
文化事業収入	0	0	0	展示会事業費支出	30,000	31,872	△1,872
受託事業収入	0	500,000	△500,000	調査研究事業費支出	740,000	996,460	△256,460
その他の事業収入	175,000	175,000	0	表彰・顕彰事業費支出	( 795,000 )	( 619,891 )	( 175,109 )
(3) 寄付金収入	( 0 )	( 0 )	( 0 )	表彰関係費支出	755,000	609,110	145,890
基金寄付金収入	0	0	0	設計競技費支出	40,000	10,781	29,219
(4) 雑収入	( 286,000 )	( 263,960 )	( 22,040 )	委託事業費支出	0	424,545	△424,545
雑収入	( 286,000 )	( 263,960 )	( 22,040 )	(2) 管理費支出	( 5,865,000 )	( 5,683,188 )	( 181,812 )
利息収入	1,000	659	341	会議費支出	( 270,000 )	( 258,570 )	( 11,430 )
その他の雑収入	285,000	263,301	21,699	総会費支出	200,000	192,050	7,950
(5) 他会計からの繰入金収入	( 6,513,000 )	( 6,650,000 )	( △137,000 )	役員会費支出	60,000	66,520	△6,520
基本部門からの繰入金収入	( 6,513,000 )	( 6,650,000 )	( △137,000 )	運営費支出	10,000	0	10,000
支部費収入	1,395,000	1,500,000	△105,000	給与手当支出	1,800,000	1,846,650	△46,650
経営助成費収入	1,920,000	1,950,000	△30,000	福利厚生費支出	300,000	314,309	△14,309
事業促進費収入	300,000	300,000	0	退職給付支出	0	0	0
支部研究補助費収入	200,000	200,000	0	通信費支出	172,000	128,606	43,394
教育文化事業交付金収入	540,000	542,000	△2,000	印刷費支出	100,000	99,992	8
支部事務費収入	300,000	300,000	0	消耗品費支出	90,000	114,374	△24,374
支部事務所費収入	1,858,000	1,858,000	0	電算費支出	0	0	0
				雑費支出	480,000	437,002	42,998
				事務所費支出	2,653,000	2,483,685	169,315
<b>事業活動収入計</b>	<b>9,179,000</b>	<b>10,042,717</b>	<b>△863,717</b>	<b>事業活動支出計</b>	<b>9,990,000</b>	<b>10,243,847</b>	<b>△253,847</b>
<b>II 投資活動収支の部</b>				<b>II 投資活動収支の部</b>			
1 投資活動収入				2 投資活動支出			
(1) 特定資産取崩収入	( 290,000 )	( 390,000 )	( △100,000 )	(1) 特定資産取得支出	( 60,000 )	( 60,000 )	( 0 )
特定資産取崩収入	( 290,000 )	( 390,000 )	( △100,000 )	特定資産取得支出	( 60,000 )	( 60,000 )	( 0 )
学術振興基金引当資産取崩収入	290,000	90,000	200,000	退職給付引当資産取得支出	60,000	60,000	0
災害調査研究基金引当資産取崩収入	0	300,000	△300,000				
<b>投資活動収入計</b>	<b>290,000</b>	<b>390,000</b>	<b>△100,000</b>	<b>投資活動支出計</b>	<b>60,000</b>	<b>60,000</b>	<b>0</b>
<b>III 財務活動収支の部</b>				<b>III 財務活動収支の部</b>			
1 財務活動収入				2 財務活動支出			
<b>財務活動収入計</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>財務活動支出計</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>
				<b>IV 予備費支出</b>	19,000	0	19,000
<b>収入合計 I～III</b>	<b>9,469,000</b>	<b>10,432,717</b>	<b>△963,717</b>	<b>支出合計 I～IV</b>	<b>10,069,000</b>	<b>10,303,847</b>	<b>△234,847</b>
<b>当期収支差額</b>	<b>△600,000</b>	<b>128,870</b>	<b>△728,870</b>				
<b>前期繰越収支差額</b>	<b>1,000,000</b>	<b>1,934,147</b>	<b>△934,147</b>				
<b>次期繰越収支差額</b>	<b>400,000</b>	<b>2,063,017</b>	<b>△1,663,017</b>				

## 監査報告

2011年度における一般社団法人日本建築学会北海道支部の業務及び経理を監査の結果、業務は適法であり、収入支出とも適正なものと認める。

2012年4月25日

支部監事 \_\_\_\_\_

支部監事 \_\_\_\_\_

### Ⅲ 2012 年度事業計画方針案

#### 1. 活動方針

学会本部の一般社団法人化は、2012年4月1日に移行が完了しました。それに伴い、支部長の選挙や支部のあり方などに、多少影響が出る予定です。さらに、2013年8月30日～9月1日の期間で開催予定の日本建築学会北海道大会に向けて、組織や企画の検討の準備が、大きな活動として位置づけられます。

また、これまで以上に活発な支部活動を推進していくために、会員増強は大きな課題となります。魅力ある支部活動の広報活動や積極的な事業展開を通じて、若い世代や実務者の入会をすすめていきたいと考えます。

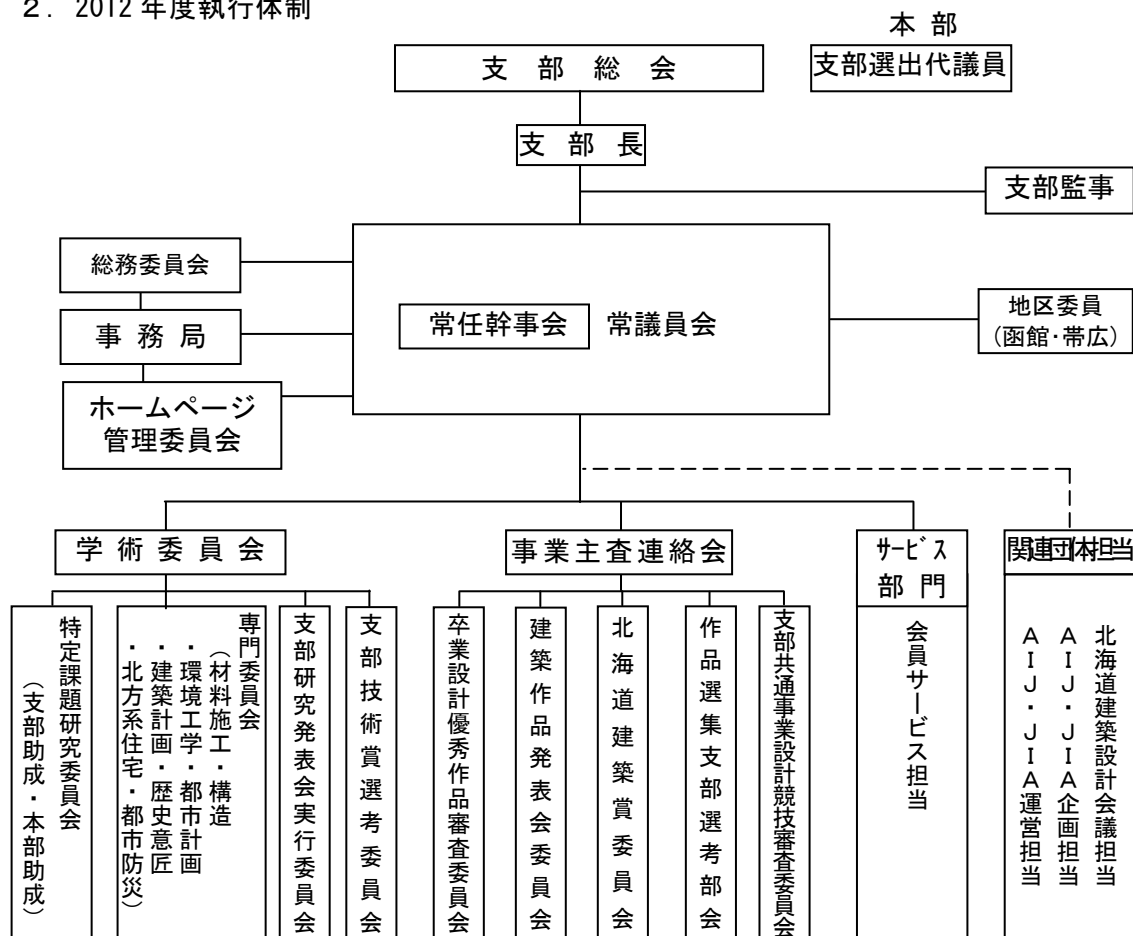
支部活動では、各専門委員会活動の活発化、特定課題研究の活性化をはかる必要がありますが、とくに専門委員会活動の点検・評価のあり方などの方策も検討していきたいと考えます。

本部では「建築デザイン発表会」開催により建築デザイン分野に発表の機会を提供し発表数の増加に寄与しているといわれていますが、本支部では同様の活動をすでに31年前から実施しており、これまでの歴史的背景を維持しつつ、更なる展開を検討していきたいと考えます。

以上をふまえて、今年度は次の5点を中心に活動いたします。

- ① 支部活動の強化（会員の増強、財政の改善と強化）
- ② 支部体制の点検と評価（各種委員会活動の検証）
- ③ 支部活動の活性化（支部発表会、建築作品発表会、各賞および支部技術賞のあり方の検討、他団体との連携）
- ④ 2013年度日本建築学会北海道大会に向けての組織編成・企画等の推進
- ⑤ 東日本大震災復興支援および今後の震災対応についての調査・研究

#### 2. 2012 年度執行体制



日本建築学会北海道支部組織構成図

支部長(2012.6.1~2014.5.31)

岡田 成幸君 北海道大学教授

新任常議員(2012.6.1~2014.5.31)

※安藤 淳一君 道都大学教授  
海藤 裕司君 (株)山下設計北海道支社設計監理部部长  
小谷 卓司君 (株)北海道日建設計構造設計室  
佐伯 健一君 北海道札幌工業高等学校建築科教諭  
島田 知典君 岩田地崎建設(株)設計部設計課課長  
最上 公一君 大成建設(株)札幌支店作業所長  
※森 太郎君 北海道大学准教授  
(※印 常任幹事)

支部長及び新任常議員は、支部役員選挙開票(2012年4月9日)により決定した。  
支部役員選挙管理委員は次の通りであった。(☆印 委員長)

☆後藤 康明君, 大條 雅昭君, 菊地 優君, 田村 隆君, 本井 和彦君,

留任常議員(2011.6.1~2013.5.31)

大條 雅昭君 北海道建設部住宅局建築指導課建築企画グループ主幹  
大谷 正則君 伊藤組土建(株)建築部部长  
※後藤 康明君 北海道大学教授  
※斉藤 雅也君 札幌市立大学准教授  
田村 隆君 清水建設(株)北海道支店設計部長  
前田 憲太郎君 北海道工業大学准教授  
渡邊 和之君 (地独)北海道立総合研究機構建築研究本部  
北方建築総合研究所主査  
(※印 常任幹事)

新任代議員 (2011.4.1~2013.3.31)

加藤 誠君 (株)アトリエブンク 常務取締役  
千歩 修君 北海道大学教授  
(2012年3月の本部選挙の結果、上記2名が選出された)

留任代議員 (2011.4.1~2013.3.31)

岡田 成幸君 北海道大学教授  
菅野 彰一君 (株)北海道日建設計代表取締役社長  
星野 政幸君 北海道工業大学名誉教授

新任支部監事 (2012.6.1~2014.5.31)

駒木 定正君 北海道職業能力開発大学校教授  
(2012年4月の支部常議員会で選出された)

留任支部監事 (2011.6.1~2013.5.31)

平尾 稔幸君 平尾建築事務所代表

地区委員 (2012.6.1~2013.5.31)

帯広地区委員 小野寺 一彦君 設計工房アーバンハウス主宰  
函館地区委員 山本 真也君 函館市交通局長

### 3. 支部運営の諸会合の開催

- ◆ 総会  
期日 2012年5月11日(金)  
会場 北海道建設会館
- ◆ 常議員会 (複数回)
- ◆ 常任幹事会 (複数回)
- ◆ 選挙管理委員会 (支部役員選挙時に開催する)

### 4. 学術系委員会

#### 4. 1 学術委員会 (主査：佐藤 孝君, 委員数：14名, 委員会開催予定数：4回)

本委員会は、本部学術推進委員会の情報を各専門委員会および研究委員会に報告するとともに、各専門委員会・研究委員会から企画および活動の報告を受け、各委員会の活動の横断的な連携をはかる。また、支部長諮問事項についての検討、支部研究発表会実行委員会の企画の審議と承認、特色ある支部活動企画の申請、特定課題研究(本部・支部助成)の推薦、建築文化週間事業および北海道支部技術賞の募集と選考を行う。

第1回：本部学術推進委員会報告。支部研究発表会の予定。専門・研究委員会活動報告。特定課題研究・建築文化週間企画の募集。

第2回：支部研究発表会の募集要項。専門・研究委員会活動報告。特定課題研究・建築文化週間企画の承認。支部技術賞の募集

第3回：本部学術推進委員会報告。支部研究発表会の企画、専門・研究委員会活動報告。支部技術賞の選考。

第4回：支部研究発表会特別企画の決定。専門・研究委員会活動報告。特定課題研究・建築文化週間の結果報告。

#### 4. 2 専門委員会

##### ◆材料施工専門委員会 (主査：伊東 敏幸君, 委員数：23名, 委員会開催予定数：6回)

建築の材料・施工に関する研究や技術の情報共有や意見交換を行うと共に、本部の関連委員会との情報交流や諮問事項の検討、最新の施工技術や特色のある建築物の現場見学会、本部主催講習会への協力など、北海道における材料・施工技術に関する研究委員会の活動を行う。具体的には、本部の材料施工委員会や各種工事運営委員会の報告および諮問事項の検討、委員等による材料・施工に関わる寒地技術の話題提供および意見交換、及び特色ある施工技術の現場見学会を予定している。

##### ◆構造専門委員会 (主査：田沼 吉伸君, 委員数：24名, 委員会開催予定数：2回)

これまでに引き続き、委員会を通して道内における構造関係の研究者・技術者との情報交換を行うと共に、各種行事を企画して地域の会員・市民への啓蒙活動を行う。主な活動予定は次のとおりである。

- 1) 委員会の開催：2回行う(6月, 12月)。必要に応じて通信会議を開く。
- 2) 講演会・講習会：JSCA等の建築関連諸団体と協力して必要に応じて計画する。
- 3) 見学会：道内の建築物(施工中も含む)等の見学会を行う。
- 4) 工業高校巡回講演会の講師推薦  
講師：長谷川圭一委員 演題：「構造設計が拓く建築デザインの世界」
- 5) 勉強会：委員会開催時に、幅広い分野を対象に適宜勉強会を

◆環境工学専門委員会（主査：斉藤 雅也君，委員数：29名，委員会開催予定数：4回）

東日本大震災を受けて、建築の環境性能のさらなる向上と住まい手の住環境に対する意識向上がより強く求められている。今年度は、本部環境工学委員会に昨年度に提出した提言に基づき、委員の社会参加、地域との学術交流を積極的に行なう。具体的には以下のとおり。

- 1) 北海道や札幌市などの自治体と共同で、建築・都市環境・防災に関する市民向けのシンポジウムを企画実施する。
- 2) 日本建築家協会等の団体と協働で建築設計者との学術・技術交流会を企画・実施する。
- 3) 先進的な環境建築の見学会を実施する（他専門委員会等との共催の可能性も含めて）。
- 4) 第7回環境工学系・卒業論文発表会（EGGs' 12）の室蘭工業大学での開催を支援する。
- 5) その他、環境工学系に関する諸団体との共同行事、後援を行なう。

◆建築計画専門委員会（主査：森 傑君，委員数：14名，委員会開催予定数：4回）

本年度は、より精力的な学術活動および社会貢献活動を展開すべく、若手を中心とした委員構成へと組織を刷新した昨年度に引き続き、専門委員会の基本的意義である北海道の建築計画（学）分野にかかわる学会員の相互交流の場として、本委員会の再活性化を目指す。具体的には、(1)委員各々の取り組みを勉強会形式により相互に紹介、建築計画（学）に関わる様々な課題や問題についての情報を共有する、(2)勉強会を発展させるようなかたちで、特定のテーマに絞ったミニシンポジウムを開催し、課題認識を深める、(3)今日の北海道において取り組むべき、建築計画（学）に関わるテーマを具体的かつ体系的に整理し、科学研究費補助金等への申請も視野に入れた、次年度以降の共同研究課題について検討する、(4)東日本大震災に関わる調査研究を中心とした特色ある支部活動を企画・実施する、に取り組む。

◆都市計画専門委員会（主査：坂井 文君，委員数：14名，委員会開催予定数：5回）

2012年度の委員会の活動については、前年度に引き続き、人材育成と情報発信に関わる活動を中心に計画している。人材育成については、都市計画を遂行する人材の育成に向けて、現場と技術と理論を並行して理解するための勉強会などの開催を計画している。具体的には、北海道の地方都市の地域主権によるまちづくりの取り組みのうち特に、空施設・空家・空地の問題や、産業・観光振興に連動した景観まちづくりについて勉強会を10、11年度に引き続き行う。また情報発信に関しては、市民のまちづくりに対する意識の啓蒙と知見を広げるために、7月にシンポジウムの開催を計画している。昨年度の公共空間のあり方に関わるシンポジウムの際の経験を踏まえ、活発な議論とより多くの市民の参加となるような企画を目指している。

◆歴史意匠専門委員会（主査：羽深 久夫君，委員数：17名，委員会開催予定数：5回）

道内各地域の歴史的建造物の現状を把握することに努め、保存・活用等に関して委員相互の情報交換を行ない、必要に応じて学会として社会や住民に貢献する体制を準備する。2012年度の建築文化週間事業として歴史的建造物の見学会「建築散歩～北彩都・旭川編」(10/13)を実施する。なお、委員会内部の活性化を考慮した研究交流や情報交換等も継続して行なう予定である。

◆北方系住宅専門委員会（主査：長谷川雅浩君，委員数：17名，委員会開催予定数：4回）

本委員会では次の活動を予定している。

- 1) 新たな地域住宅像形成に向けた取り組みについて検討を進めるため年4回の委員会を開催する。
- 2) 新たな地域住宅像の検討に向けて住宅の見学会・意見交換会を開催する。
- 3) 支部特定課題研究「三角屋根コンクリートブロック住宅の持続可能住居について」の研究を実施する。

◆都市防災専門委員会（主査：草苺 敏夫君，委員数：19名，委員会開催予定数3回，通信委員会予定数：2回）

都市防災専門委員会では、例年9月に釧路市で開催された釧路市「防災ワンデー2012」に対する協力を行う。さらに、建築文化週間「地震防災体験学習」への運営協力支援、2013年1月15日が釧路沖地震発生から20年目に当たることから、これに関する防災活動に対する協力を行い、



一般住民の防災意識向上や地域の防災力向上に対する支援活動を行う。

#### 4. 3 特定課題研究委員会

(2011 年度より)

◆三角屋根コンクリートブロック住宅の持続可能居住研究委員会(主査：谷口 尚弘君, 委員数：12 名, 委員会開催予定数：3 回)

本年度は 2011 年度の活動を踏まえ、ストックとしても多く現存しかつ現代史的にも秀逸な三角屋根 CB 造住宅より新たな住空間の可能性を見いだすために、(1)三角屋根 CB 造住宅の開発供給とその社会的背景の把握と住宅図面からの平面構成の変遷の把握:RB 開発からみた三角屋根住宅開発の歴史的な位置づけを当時の図面、設計資料、供給公社の元開発者らのインタビューより把握する、(2)住宅地変容と居住者評価の把握:居住性に関しては居住者へのオーラルヒストリーの収集、現居住者へは三角屋根住宅への現在のニーズ調査を行い、現在の三角屋根住宅の住宅地での長所・短所などを把握する。

(2012 年度より)

◆奥尻島生活再建研究委員会(主査：南 慎一君, 委員数：6 名, 委員会開催予定数：複数回)

本研究は、奥尻島津波災害からの生活再建過程に着目し、住民の生活意識・行動の変容を把握することによって、災害復興の影響を明らかにすることを目的とする。また、災害からの生活再建に関する教訓の次世代への継承について考察を行う。

得られる成果は、今後の奥尻島の地域再建に示唆を与えるものとなる。また、東日本大震災からの生活再建を目指す自治体に対しても、災害の長期的な影響に関する情報を提供出来る。さらに、災害復興における生活再建のあり方についての示唆が得られる。

・研究項目

1. 奥尻島津波災害からの生活再建過程
  - ・災害復興過程の文献資料調査による生活環境、生産環境の変容の分析
2. 住民の生活行動・意識の変容
  - ・災害前後の生活行動・意識に関する聞き取り調査
3. 災害からの生活再建の教訓とその継承
  - ・生活再建の教訓の集約とその継承方法(情報発信)の提案

◆厳冬季被災を想定した避難所運営手法に関する研究委員会(主査：森 太郎君, 委員数：6 名, 委員会開催予定数：複数回)

避難所の運営手法については、避難所運営マニュアルの例は多くあるが、より実践的な訓練手法の一つに静岡県が実用化した「HUG」手法がある。これは、避難所の運営に当たる人たち(施設管理者、自主防災組織、ボランティアなど)を対象に、研修会で使われているものである。しかし、寒冷地の避難事例が含まれていないために防寒対策の面が十分に盛り込まれていない。

本研究では、多くの自治体で想定される避難状況に対応する為に、避難所の運営に係る諸課題を解決し、適正且つ円滑な運営を図るため、冬季の避難対策を対象にした避難所運営手法の開発を行う。得られる成果は、自治体職員、自主防災組織、ボランティアの研修用ツールとしての活用が見込まれる。

・研究項目

1. 避難所運営課題の分析・・・災害事例調査、備蓄物資調査
2. 避難所の温熱環境の調査・・・厳冬期防災訓練時の温熱環境調査、体感調査
3. 避難所運営手法の開発・・・HUG の内容、活用方法
4. 避難所運営手法の検証・・・WS の開催

#### 4. 4 本部からの支部助成金による研究委員会

(2011 年度より)

◆寒中コンクリート工事合理化研究委員会(主査：谷口 円君, 委員数：13 名, 委員会開催予定

#### 数：4回)

本委員会は、地域、養生条件等の異なる実施工現場において、外気、上屋内、構造体、管理供試体温度の実測データを収集・解析を行い、気象統計値と予想コンクリート温度を用いた合理的な寒中コンクリート工事施工計画を立案するための実用的な資料提供を目的に活動を行う。

2012年度の活動内容は以下の通りである。

- 1) 夏期の実施工現場における温度実測・解析
- 2) 冬期の実施工現場における温度実測・解析
- 3) 解析結果に基づく、実用的な資料提供に係わる検討

以上から、得られる成果は、継続養生期間において、気象統計値から平均的な構造体コンクリート温度を予測する平易な手法が得られることである。このことは、合理的な寒中コンクリート工事施工計画立案手法に寄与するものとなる。

## 5. 支部研究発表会

### 5. 1 支部研究発表会実行委員会（主査：高井 伸雄君，実行委員会委員数：17名，委員会開催予定回数：4回）

支部研究発表会実行委員会は支部研究発表会の企画・運営を目的とし、下記を実施する。

- 1) 支部研究発表会の日程と会場の決定
- 2) 支部研究発表会の論文原稿種別、発表形式の決定
- 3) 論文執筆要領の作成と論文原稿の募集
- 4) 会長講演会および特別企画の実施
- 5) 論文原稿の受付および編集作業の実施、研究発表会プログラムの作成
- 6) 支部研究報告集（冊子およびCD-ROM）の作成および発行
- 7) 支部研究発表会の実施
- 8) 優秀講演奨励賞の選定・授与

### 5. 2 支部研究発表会の実施

第85回北海道支部研究発表会

日時：2012年6月30日（土）～7月1日（日） 一般研究発表会、和田会長講演会

場所：北海道立総合研究機構 北方建築総合研究所

懇親会：講演会終了後に旭川市内で開催

原稿提出締切：2012年4月19日（木）17:00（電子投稿受付）

発表登録システム HP：[http://olive-sg.eng.hokudai.ac.jp/aij/entry/thesis\\_entry.php](http://olive-sg.eng.hokudai.ac.jp/aij/entry/thesis_entry.php)

支部研究報告集（冊子およびCD-ROM）No.85を発行

## 6. 表彰

### 6. 1 北海道建築賞

#### （1）賞の概要

建築作品を支える「先進性」、「規範性」、「洗練度」の3つの視点から現地視察、議論を通して選考し、北海道建築賞の表彰と受賞者による記念講演を行い、北海道における建築創作活動の一層の促進を図る。

#### （2）北海道建築賞委員会の実施

上記の方針に基づき、以下のスケジュールによって委員会を実施する。

- 1) 第37回北海道建築賞の応募期間：2012年4月16日（月）～5月15日（火）
- 2) 審査期間：5月上旬（応募状況確認および応募推薦作品の選定）～6月中旬（書類審査）～7・8月（現地審査）～9月上旬（最終選考）

- 3) 結果発表：9月下旬（常議員会での承認後）
- 4) 北海道建築賞表彰式および受賞記念講演会：10月26日（金）予定

## 6. 2 卒業設計優秀作品（日本建築学会北海道支部賞）

### （1）賞の概要

大学・短大・高専・専門学校・工高の卒業設計優秀作品の表彰を行い、北海道地域の文化、建築教育の向上を図る。

### （2）卒業設計優秀作品審査委員会の実施

2012年度卒業設計優秀作品審査委員会においては、2011年度と同様、2012年度卒業設計作品について優秀作品審査委員会を実施し、表彰の目的、審査の考え方を確認した上で「大学」「短大・高専・専門学校」「工業高校」の部門別に金、銀、銅の各賞を選考する。また、講評の論点を確認し、各選考作品の講評を行う。

## 6. 3 卒業優秀学生・生徒（日本建築学会北海道支部賞）

大学・短大・高専・工高の優秀学生・生徒の表彰を行い、北海道地域の文化、建築教育の向上を図る。

## 6. 4 日本建築学会北海道支部功労賞

当支部の維持・発展にとって功績・功労のあった支部に所属する会員、または所属した会員に対して、支部としての感謝の意を表するとともに、支部活動の活性化と意識の高揚を図ることを目的とし、表彰を実施する。

## 6. 5 日本建築学会北海道支部技術賞

北海道支部技術賞は、地域性に関わって、創造性豊かな建築・都市に関する新技術を表彰することにより、北海道における建築界の技術の向上に資することを目的とし、表彰を実施する。

## 7. 北海道建築作品発表会

### 7. 1 北海道建築作品発表会委員会（主査：米田 浩志君，委員数：3名，実行委員数：10名，委員会開催数：5回（実行委員会4回を含む））

2012年度は、建築作品発表会が第32回を迎える。昨年に引き続き充実した発表の場にしたい。また、発表会の後半に企画しているフォーラムを発展させながら、さらに活発な議論が生じるような場を検討して行きたい。建築作品発表会の過去三十数年は北海道建築の質の向上に積極的に寄与してきた。その歴史的事実を再確認しながら、今後の発表会への橋渡しをすべく32年目の発表会プログラムを検討していきたい。尚、例年通り建築作品発表会作品集を発行する予定である。

### 7. 2 北海道建築作品発表会の実施予定

作品登録締め切り：9月中旬から下旬  
作品集原稿締め切り：10月上旬から中旬  
作品発表会開催時期：11月下旬から12月上旬  
作品発表会開催場所：北海道立近代美術館講堂（予定）

## 8. 特別委員会

### 8. 1 事業主査連絡会（事業系5委員会の主査および事業主査連絡会担当常議員， 予定開催数：複数回）

事業系5委員会について、事業の進捗状況ならびに事業を進める上での問題点等を適宜把握する。これを通じて、意思決定機関である常議員会へ改善や展開の提案等をおこなう。また、この役割を今後も果たすために必要な活動を推進する。さらに、事業系5委員会が連携しながら事業総体の活性化を計る可能性についても検討を継続する。

### 8. 2 総務委員会（委員長：小澤 丈夫君，委員数：4名）

本委員会の目的である北海道支部事務局運営の健全性を維持するために、適宜委員会を開催し財務管理・事務局業務管理について検討する。昨今の経済状況により支部の財政状況がさらに悪化していることから、各事業に対して早めの詳細予算策定および事業終了後の決算報告についての提出を厳格にして、見通しのある財務管理を進める予定である。さらに、事務局業務の効率化、日本建築家協会北海道支部との合同企画についても検討を行う。

総務委員会(2012年度)(予定)

委員長	小澤 丈夫 君	北海道大学	(教育機関の常議員経験者)
委員	那須 豊治 君	岩田地崎建設	(民間機関の常議員経験者)
〃	福島 明 君	北海道	(行政機関の常議員経験者)
〃	渡邊 和之 君	北海道立総合研究機構	(留任常議員)
〃	未 定		(新任常議員)

### 8. 3 ホームページ管理委員会（主査：齊藤 雅也君，委員数：3名，委員会開催数：2回，メール等による情報交換を実施予定）

平成24年度は主に以下の事項について実施する予定である。

- 1) 委員変更によるウェブ更新作業のプロセスを確認する。
- 2) 支部研究発表会実行委員会と連携して、電子投稿システムの運用を支援する。
- 3) 支部主催・支援事業等の告知を行なう。
- 4) 学術委員会、各専門委員会等のウェブ掲載内容の更新を促し、最新情報の掲載に務める。

## 9. 講習会・シンポジウム等の開催

本部主催による講習会・講演会のほか、地域の要請にこたえる各種の講演・講習会を、工業高校・自治体及び関連諸団体等の協力を得て複数の地域で企画実施する。

### 9. 1 本部主催講習会

2012年度本部主催支部共通事業、委員会主催講習会を開催する。

### 9. 2 講演会

各専門委員会等の主催により、自治体、関係諸団体等の協力を得て企画実施する。

### 9. 3 展示会

支部卒業設計優秀作品を学会支部ホームページにて公開する。また、全国大学・高専卒業設計優秀作品巡回展ならびに道内工高卒業設計優秀作品巡回展を実施する。

## 9. 4 見学会

各専門委員会等の主催により、自治体、関係諸団体等の協力を得て企画実施する。

### 10. 本部関連事業・その他

#### 10. 1 2011年度支部共通事業設計競技の実施（主査：川人 洋志君，委員数：5名，委員会開催予定数：1回）

2012年度設計競技審査委員会の委員には、主査川人洋志、委員、赤坂真一郎、小西彦仁、那須聖、山之内裕一の5名で行う予定である。

2012年度の課題は「あたりまえのまち／かけがえのないもの」と決定され、7月中に支部審査を1回行う予定である。

#### 10. 2 作品選集支部選考部会（主査：小澤 丈夫君，委員数：7名，委員会開催予定数：2回及び現地審査）

2010年度の応募数が10作品であったのに対し、2011年度は、応募数が6作品にとどまった。例年複数件あった住宅の応募が1作品にとどまる一方で、業務・商業系施設が半数の3作品を占め、また、応募6作品すべてが札幌市内及び札幌市近辺のものであった。応募数減少だけが課題ではなく、今年度の全応募作品を俯瞰すると、ここ数年北海道の多様な建築が作品選集に掲載されてきたのに対し、建物種別・立地等においてややバリエーションに欠けていた点は否めない。これについて何か原因があるのか、あるいは、たまたま作品の竣工時期が本年度の応募期間に適応しなかった偶然によるものかを判断するには、今後の動向をさらに注視する必要があるが、まずは、2012年度において、幅広い会員層に対して、より積極的に多様な作品の応募を求めるよう呼かけていきたい。一方で、今年度は応募作品が少なくすべてが札幌市内と近辺にあったため、全委員が全作品を現地審査できたことは、闊達な議論を行うために有効であった。2012年度も、できる限り多くの委員が多くの現地審査を行えるようにしていきたい。

#### 10. 3 建築文化週間

グループセミナーなどを通して地域との研究交流を深め、また建築文化週間などの文化事業を通じて、開かれた学会として社会に対する文化活動の推進を図る。本年度予定している文化関連事業は、以下の3件を予定している。

1. 「地震防災体験学習・・・親子で始める地震防災対策」（都市防災専門委員会）
2. 歴史的建造物の見学「建築散歩～北彩都・旭川編」（歴史意匠専門委員会）
3. 「第37回北海道建築賞表彰式・記念講演会」（支部主催）

### 11. 建築関連団体との活動

#### 11. 1 AIJ-JIA 合同委員会（委員数(AIJ)：常任7名，委員会開催予定数：1回）

日本建築家協会北海道支部(JIA)と合同委員会を開催し、両団体の活動についての情報交換および合同企画について協議する。ジョイントセミナーについては、継続して行うように計画を進める。

#### 11. 2 北海道建築設計会議

10団体により構成されている本会議は、建築確認制度や建築士制度など、主に建築業界に共有の課題について、引き続き情報交換や意見交換をおこなう予定である。

#### IV 2012年度収支予算案

北海道支部

(単位:円)

科目名称	予算額	前年度予算額	差異	科目名称	予算額	前年度予算額	差異
<b>I 事業活動収支の部</b>				<b>I 事業活動収支の部</b>			
<b>1 事業活動収入</b>				<b>2 事業活動支出</b>			
(1) 特定資産運用収入	( 5,000)	( 5,000)	( 0)	(1) 事業費支出	( 4,705,000)	( 4,125,000)	( 580,000)
特定資産利息収入	5,000	5,000	0	研究集会事業費支出	( 2,200,000)	( 2,200,000)	( 0)
(2) 事業収入	( 2,875,000)	( 2,375,000)	( 500,000)	研究集会事業費支出	2,200,000	2,200,000	0
研究集会事業収入	( 2,200,000)	( 2,200,000)	( 0)	文化事業・展示会費支出	( 400,000)	( 390,000)	( 10,000)
研究集会事業収入	2,200,000	2,200,000	0	文化事業費支出	370,000	360,000	10,000
文化事業収入	0	0	0	展示会事業費支出	30,000	30,000	0
受託事業収入	500,000	0	500,000	調査研究事業費支出	920,000	740,000	180,000
その他の事業収入	175,000	175,000	0	表彰・顕彰事業費支出	( 760,000)	( 795,000)	( △35,000)
(3) 寄付金収入	( 0)	( 0)	( 0)	表彰関係費支出	720,000	755,000	△35,000
基金寄付金収入	0	0	0	設計競技費支出	40,000	40,000	0
(4) 雑収入	( 121,000)	( 286,000)	( △165,000)	委託事業費支出	425,000	0	425,000
雑収入	( 121,000)	( 286,000)	( △165,000)	(2) 管理費支出	( 5,814,000)	( 5,865,000)	( △51,000)
利息収入	1,000	1,000	0	会議費支出	( 244,000)	( 270,000)	( △26,000)
その他の雑収入	120,000	285,000	△165,000	総会費支出	200,000	200,000	0
(5) 他会計からの繰入金収入	( 6,447,000)	( 6,513,000)	( △66,000)	役員会費支出	40,000	60,000	△20,000
基本部門からの繰入金収入	( 6,447,000)	( 6,513,000)	( △66,000)	運営費支出	4,000	10,000	△6,000
支部費収入	1,389,000	1,395,000	△6,000	給与手当支出	1,800,000	1,800,000	0
経営助成費収入	1,860,000	1,920,000	△60,000	福利厚生費支出	300,000	300,000	0
事業促進費収入	300,000	300,000	0	退職給付支出	0	0	0
支部研究補助費収入	200,000	200,000	0	通信費支出	172,000	172,000	0
教育文化事業交付金収入	540,000	540,000	0	印刷費支出	100,000	100,000	0
支部事務費収入	300,000	300,000	0	消耗品費支出	90,000	90,000	0
支部事務所費収入	1,858,000	1,858,000	0	電算費支出	0	0	0
会館部門からの繰入金収入	( 0)	( 0)	( 0)	雑費支出	455,000	480,000	△25,000
支部事務所費収入	0	0	0	事務所費支出	2,653,000	2,653,000	0
<b>事業活動収入計</b>	<b>9,448,000</b>	<b>9,179,000</b>	<b>269,000</b>	<b>事業活動支出計</b>	<b>10,519,000</b>	<b>9,990,000</b>	<b>529,000</b>
<b>II 投資活動収支の部</b>				<b>II 投資活動収支の部</b>			
<b>1 投資活動収入</b>				<b>2 投資活動支出</b>			
(1) 特定資産取崩収入	( 470,000)	( 290,000)	( 180,000)	(1) 特定資産取得支出	( 60,000)	( 60,000)	( 0)
特定資産取崩収入	( 470,000)	( 290,000)	( 180,000)	特定資産取得支出	( 60,000)	( 60,000)	( 0)
学術振興基金引当資産取崩収入	470,000	290,000	180,000	学術振興基金引当資産取得支出	0	0	0
支部基金引当資産取崩収入	0	0	0	支部基金引当資産取崩支出	0	0	0
退職給付引当資産取得収入	0	0	0	退職給付引当資産取得支出	60,000	60,000	0
<b>投資活動収入計</b>	<b>470,000</b>	<b>290,000</b>	<b>180,000</b>	<b>投資活動支出計</b>	<b>60,000</b>	<b>60,000</b>	<b>0</b>
<b>III 財務活動収支の部</b>				<b>III 財務活動収支の部</b>			
<b>1 財務活動収入</b>				<b>2 財務活動支出</b>			
<b>財務活動収入計</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>財務活動支出計</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>
<b>収入合計 I～III</b>	<b>9,918,000</b>	<b>9,469,000</b>	<b>449,000</b>	<b>IV 予備費支出</b>	14,000	19,000	△5,000
<b>当期収支差額</b>	<b>△675,000</b>	<b>△600,000</b>	<b>△75,000</b>	<b>支出合計 I～IV</b>	<b>10,593,000</b>	<b>10,069,000</b>	<b>524,000</b>
<b>前期繰越収支差額</b>	<b>2,000,000</b>	<b>1,000,000</b>	<b>1,000,000</b>				
<b>次期繰越収支差額</b>	<b>1,325,000</b>	<b>400,000</b>	<b>925,000</b>				

#### 基金・積立金内訳

2011年度末(決算)		2012年度末(予算)	
支部基金	2,810,000	支部基金	2,810,000
災害調査研究基金	1,900,000	災害調査研究基金	1,900,000
学術振興基金	3,080,000	学術振興基金	2,610,000
職員退職積立金	660,000	職員退職積立金	720,000

北海道支部地域法人正会員・賛助会員名簿

2012年3月末現在

◆法人正会員

会員番号	口数	会員社名・団体名	会員番号	口数	会員社名・団体名
00503-64	1	伊藤組土建(株)	00547-58	1	戸田建設(株)
00505-34	2	岩倉建設(株)	00553-56	1	(株)巴コーポレーション
00505-50	2	岩田地崎建設(株)	00557-04	1	日鐵セメント(株)
00515-72	1	(株)岡田設計	00614-45	1	日本データサービス(株)
00567-92	2	北電興業(株)	00555-50	1	西松建設(株)
00517-00	5	鹿島建設(株)	00560-51	1	(株)日本設計札幌支社
00614-38	1	(株)ホーム企画センター 総務部	00561-82	1	日本防水総業
00523-82	2	(株)熊谷組	00573-66	1	(株)三菱地所設計
00568-23	2	(株)北海道日建設計	00625-81	1	(株)アトリエ・アク
00571-46	3	丸彦渡辺建設(株)	00586-89	1	北農設計センター
00540-41	5	大成建設(株)	00597-74	1	(株)総研設計
00575-10	1	宮坂建設工業(株)	00616-32	1	(株)北方住文化研究所
00544-49	2	(株)竹中工務店	00568-07	1	(株)ドーコン
00674-76	1	(株)間組 札幌支店建築部	00618-60	1	北海道建築設計監理 (株)
00659-11	1	(株)都市設計研究所	00568-15	2	北海道コンクリート 工業
00674-84	1	五洋建設(株) 札幌支店	00531-84	1	清水建設(株)
00549-52	1	東急建設(株) 札幌支店	00538-83	2	(株)田中組
00710-77	1	(株)久米設計札幌支社	00674-50	1	(株)中原建築設計 事務所
00684-22	1	(株)北海道サンキット	00684-14	1	(株)三暁プレコン システム
00724-63	1	(有)エヌディースタジオ	00685-29	1	(株)北海道不二サッシ
00725-28	1	(株)コバエンジニア	00704-45	1	(株)アトリエ・ブנק
00725-36	1	(有)北欧住宅研究所	00704-09	2	(財)北海道建築指導 センター
00708-51	2	北海道旅客鉄道(株)			
00721-70	1	(株)土屋ホーム			

◆賛助会員

会員番号	口数	会員社名・団体名
00814-70	3	北海道電力(株)
00810-06	1	道都大学附属図書情報館
00813-49	1	(株)NTT ファシリテイ ーズ北海道支店 営業推進部
00815-01	1	北海学園大学附属 図書館
00815-19	1	札幌建築デザイン専門学 校
00847-03	1	(株)総合資格





一般社団法人 日本建築学会北海道支部

〒060-0004 札幌市中央区北4条西3丁目1  
北海道建設会館 6階

TEL.011-219-0702 FAX.011-219-0765

E-mail: [aij-hkd@themis.ocn.ne.jp](mailto:aij-hkd@themis.ocn.ne.jp)

<http://news-sv.aij.or.jp/hokkaido/>